

# 石狩市営プール整備基本計画

令和8年3月

石 狩 市

# 目 次

第1章 整備検討の概要 .....	1
1-1 背景と目的 .....	1
1-2 整備基本計画の位置付け .....	2
1-3 プールを取り巻く現状・課題 .....	3
第2章 再整備に関する基本的な考え方 .....	19
2-1 基本方針 .....	19
2-2 導入機能 .....	20
第3章 整備計画 .....	21
3-1 必要諸室の機能・規模・留意点 .....	21
3-2 計画地 .....	27
3-3 配置計画 .....	32
3-4 設備計画・防災計画 .....	35
第4章 市営プールの事業計画 .....	42
4-1 事業手法 .....	42
4-2 整備事業費・維持管理費の概算 .....	44
4-3 財源 .....	44
4-4 運営計画 .....	46
4-5 事業スケジュール .....	47

# 第1章 整備検討の概要

---

## 1-1 背景と目的

### (1)背景

本市の市営プールは「石狩市民プール」と「石狩市 B&G 海洋センタープール」の2か所があります。

石狩市民プールは、市民の健康の増進を図るため及び市民の交流の場を提供する施設として設置され、また、石狩市 B&G 海洋センタープールは、海洋性レクリエーションを軸とした青少年健全育成活動や地域住民の方々の健康づくりを目的として設置された施設です。

両プールは、こどもをはじめ幅広い年代の市民に利用されてきましたが、ともに築 30 年以上経過し、老朽化が著しくなっています。

そのため、老朽化した2か所の市営プールを統合再整備し、市民が水泳等の活動を通じて心身の健康増進と交流を図る拠点づくりが求められています。

石狩市民プール



石狩市 B&G 海洋センタープール



### (2)目的

「石狩市営プール整備基本計画(以下、「基本計画」という)」は、先に定めた「石狩市営プール整備基本構想(以下、「基本構想」という)」の基本的な方針に基づき、プールの諸室や規模、施設配置など施設整備の方向性を定めることを目的とします。

## 1-2 整備基本計画の位置付け

「基本構想」は、本市の最上位計画である「第5期石狩市総合計画」に即するとともに、「石狩市都市整備骨格方針」、「石狩市公共施設等総合管理計画」等の関連計画を踏まえ、市民アンケートや関係団体ヒアリングなどニーズ把握を行い、市営プール整備の基本的な方針を定めました。

本「基本計画」は、「基本構想」から今後の設計へ繋ぐものであり、調整・整理が必要となりますが、プールとしての基本的な規模や仕様について方向性を定めます。設計において更に具体的な検討を行うため、また、本庁舎周辺エリアにおいて検討中である複合施設（仮称「まちなかふれあい拠点」）の整備方針との統合が必要となるため、本書で示す整備イメージ等は確定したものではなく、今後変更となる可能性があります。

また「基本計画」の検討にあたっては、「市営プール整備に関する意見交換等」や「利用関係団体等個別ヒアリング」を行い、それらの意見を反映した計画としています。

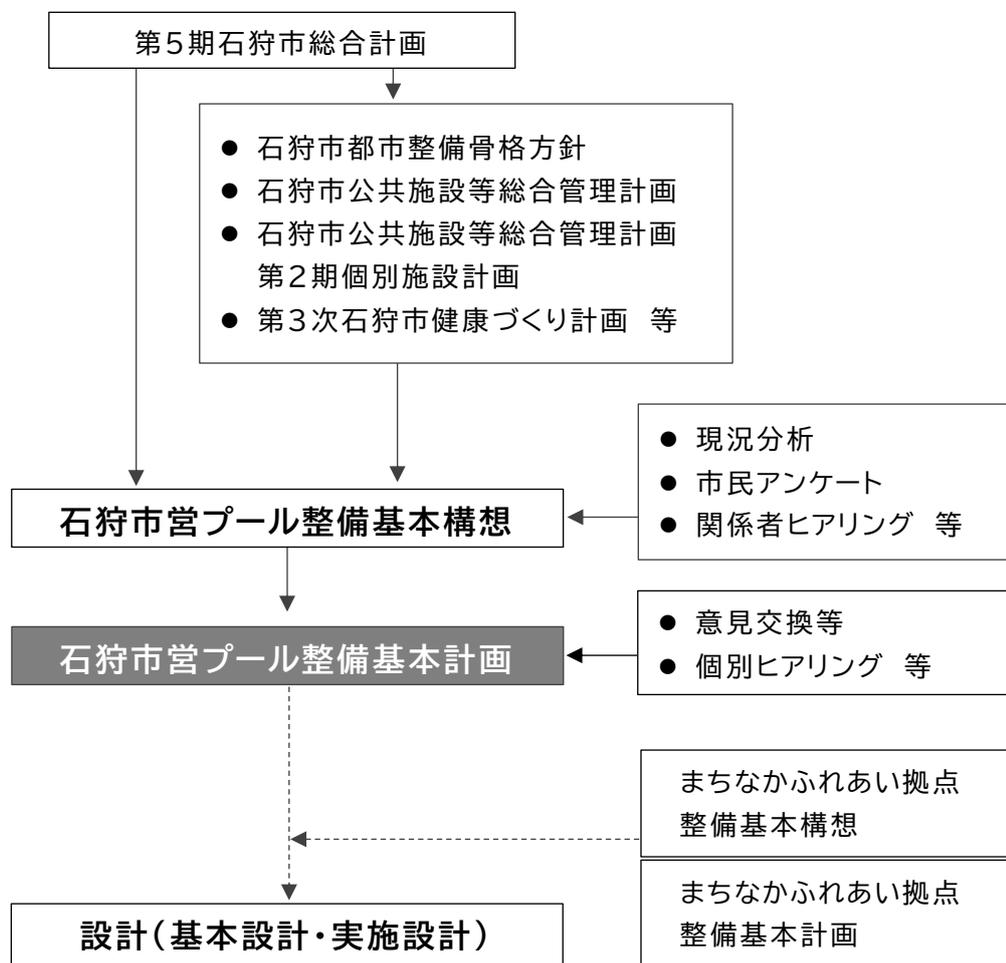


図 整備検討の位置付け

### 1-3 プールを取り巻く現状・課題

#### (1) 現施設の概要

石狩市民プール及び石狩市 B&G 海洋センタープールの施設概要は、下表に示すとおりです。

表 石狩市民プール及び石狩市 B&G 海洋センタープールの施設概要

	石狩市民プール	石狩市 B&G 海洋センタープール
		
所 在	石狩市花川北 3 条 2 丁目 198 番地 3	石狩市花畔 337 番地 4
構造・階数	鉄筋コンクリート造・地下1階地上2階建	鉄骨ビニールシート貼上屋付・平屋建
建 築 年	昭和 62 年(1987 年)9 月(築 38 年) ※石狩グランドプラザとして民間事業者が建設 ※平成 14 年(2002 年)7 月に本市へ移管	平成 4 年(1992 年)7 月(築 33 年)
敷 地 面 積	1,995.60 m <sup>2</sup>	9,970 m <sup>2</sup>
延 床 面 積	1,752.20 m <sup>2</sup>	1,828 m <sup>2</sup> (内プール 863 m <sup>2</sup> )
供 用 期 間	通年(温水プール)	7月・8月
プ ー ル	・レーン: 25m×5レーン 内一般用4レーン 内こども用 1レーン(デッキ設置) ・水 深: 一般用 110cm~125cm、 こども用 60cm~75cm (デッキ設置時)	【25m プール】 ・レーン: 25m×6 レーン ・水 深: 110cm~120cm 【幼児用プール】 6.6×10m ・水 深: 50cm~60cm
その他機能	多目的ホール(2階) ・ホール A: 154.8 m <sup>2</sup> ・ホール B: 68.8 m <sup>2</sup> ・ホール C: 95.1 m <sup>2</sup>	【併設施設(RC 造2階建)】 ・アリーナ : 853 m <sup>2</sup> ・トレーニングルーム : 431 m <sup>2</sup> ・ミーティングルーム : 61 m <sup>2</sup>
維 持 管 理	指定管理者制度による維持管理 (石狩市公務サービス株式会社)	指定管理者制度による維持管理 (公益財団法人石狩市スポーツ協会)

(2) 利用状況

① 石狩市民プールの利用状況

i) 年間・月間プール利用者数

石狩市民プールは通年利用できる温水プール施設であり、開館時間は 9 時 30 分から 21 時 30 分まで、休館日は毎月第一、第三日曜日と年末年始となっています。

入館料は一般 550 円(小中学生は 280 円、未就学児無料)で時間制限は無く、石狩市民以外の方も利用できます。

また、指定管理者である石狩市公務サービス(株)により、水泳教室が行われています。

石狩市民プールの利用者数は令和 3 年度(2021 年度)には約 2 万 5 千人、令和 4 年度(2022 年度)は約 3 万 6 千人、令和 5 年度(2023 年度)は約 3 万 7 千人、令和 6 年度(2024 年度)は約 3 万 5 千人となっています。令和 3 年度(2021 年度)は 3 度の休館期間(5/16~6/20、8/10~9/30、1/23~1/31)があったため、利用者数が少なくなっています。

一般利用が 3 割程度、教室等の利用者数が 6 割程度、団体利用は 1 割程度です。

月別の変動をみると、6 月~9 月が比較的多く、1~2 月が比較的小さい傾向です。

表 石狩市民プールの年度別利用者数

		一般利用	教室等	団体	合計
令和3年度 (2021年度)	人	8,327	15,183	1,453	24,963
	構成比	33.4%	60.8%	5.8%	100.0%
令和4年度 (2022年度)	人	10,219	23,323	2,665	36,207
	構成比	28.2%	64.4%	7.4%	100.0%
令和5年度 (2023年度)	人	11,331	23,191	2,084	36,606
	構成比	31.0%	63.4%	5.7%	100.0%
令和6年度 (2024年度)	人	11,337	21,251	2,137	34,725
	構成比	32.6%	61.2%	6.2%	100.0%

資料:「石狩市民プール利用状況報告書」

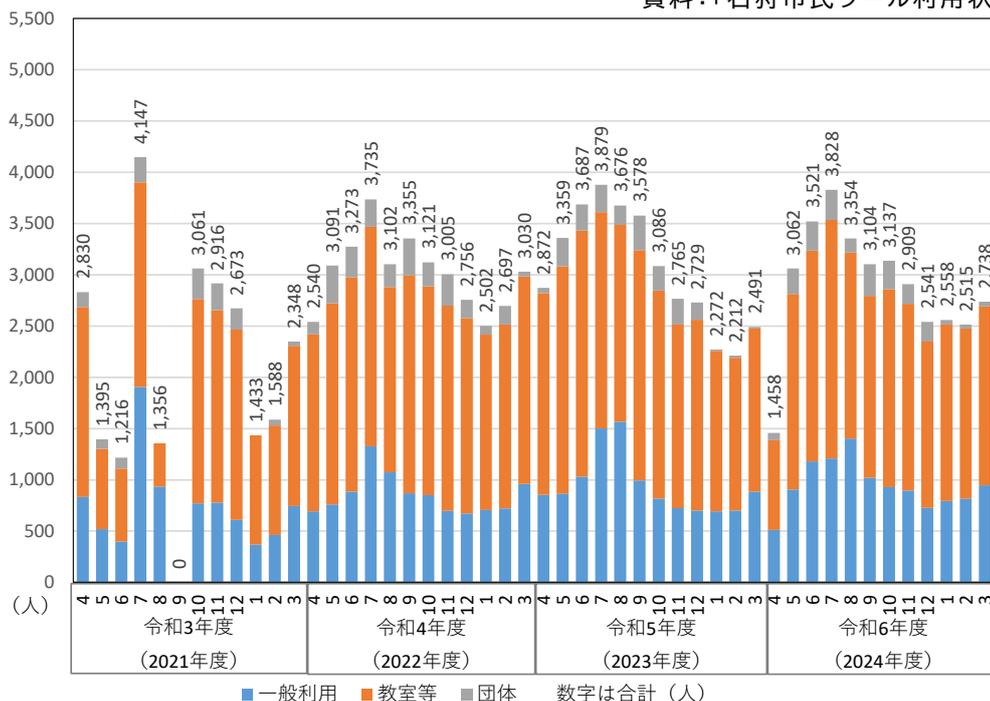


図 石狩市民プールの月別利用者数

資料:「石狩市民プール利用状況報告書」

## ii) 日平均プール利用者数

令和6年度(2024年度)の開館日平均利用者数をみると、一般利用は38.2人、水泳教室利用は68.2人、団体利用は4.1人、合計で110.4人となります。

水泳教室は、子ども(中学生以下)を対象に「キッズ(3~4歳)(5~6歳)」「ジュニアI・II」「育成I・II」と、年齢や習熟度に応じて実施しているものと、大人(高校生以上)を対象に「モーニング1・2・3・4」「ナイト」「水中運動」と多様なメニューを提供しているものがあります。

教室利用のうちでは、「ジュニアI・II」の利用者数が多くなっています。

時間帯別にプール室にいる平均人数をみると、11時が10.7人と最も多く、次いで17時の8.8人となっています。

表 石狩市民プールの令和6年度(2024年度)開館日平均利用者数

利用区分		利用者数
一般利用		38.2
水泳教室利用	モーニング1	0.6
	モーニング2	0.9
	モーニング3	6.9
	モーニング4	5.0
	水中運動	2.5
	ナイト	1.9
	親子	0.2
	短期教室	0.8
	キッズ3~4歳	0.8
	キッズ5~6歳	5.4
	ジュニアI	16.5
	ジュニアII	15.6
	育成I	3.8
	育成II	1.0
	幼稚園	6.4
教室等計	68.2	
団体利用		4.1
合計		110.4

資料:「石狩市民プール管理日誌」

注:数値の単位未満は四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

表 石狩市民プールの令和6年度(2024年度)開館日平均プール室人数

	11:00	13:00	15:00	17:00	19:00	21:00
プール室人数	10.7	5.7	7.2	8.8	3.7	2.1

資料:「石狩市民プール管理日誌」

### iii) 多目的ホール利用者数

石狩市民プールの2階には多目的ホールがあり、ホールA、B、Cの3室を貸室利用することができます。3室は個別に使用することも、繋げて一体の空間として使用することもできます。

年間の利用者数は令和3年度が3,850人、令和4年度が5,707人、令和5年度が4,978人、令和6年度が5,486人となっています。

また、過去の利用実績をみると、月によって利用変動が大きいですが、月平均で約27件の申し込みがあり、月平均の総利用時間は88時間、一件平均の利用時間は3.3時間となっています。

令和6年(2024年)の利用データから、利用目的別の総利用時間をみると、「会議・打合せ」「式典・催し物」「空手」の割合が大きい傾向があります。

また、申込件数をみると、「空手」「ダンス」「会議・打合せ」の順に多く、スポーツを目的として多目的室Cを利用する傾向があります。

表 多目的ホールの利用実績

年度	利用者数
令和3年度(2021年度)	3,850人
令和4年度(2022年度)	5,707人
令和5年度(2023年度)	4,978人
令和6年度(2024年度)	5,486人

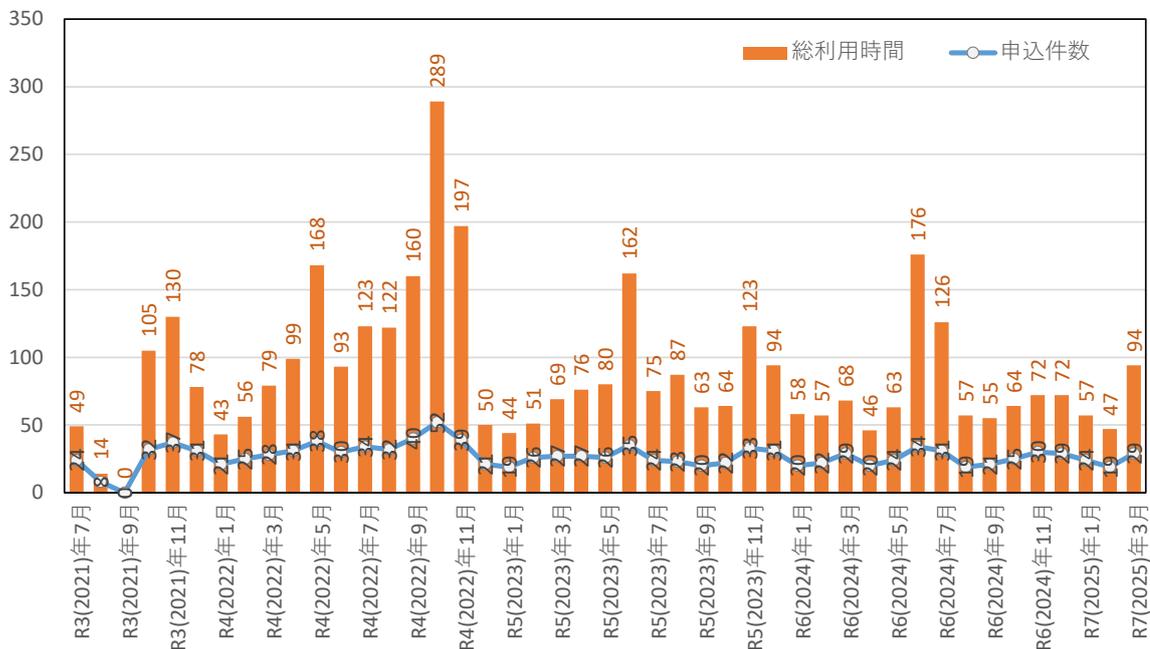


図 多目的ホールの月別の申込件数と総利用時間

資料:「石狩市公共施設予約サービス」実績データ

表 多目的ホールの令和 6 年(2024 年)1 月～12 月の利用内訳(利用室)

利用室	申込件数		総利用時間	
	(件)	構成比	(h)	構成比
ABC 一体利用	0	0.0%	0	0.0%
AB 一体利用	14	4.6%	84	9.2%
ホール A(154.8 m <sup>2</sup> )	69	22.7%	211	23.1%
ホール B(68.8 m <sup>2</sup> )	63	20.7%	307	33.6%
ホール C(95.1 m <sup>2</sup> )	158	52.0%	312	34.1%
合計	304	100.0%	914	100.0%

資料:「石狩市公共施設予約サービス」実績データ

表 多目的ホールの令和 6 年(2024 年)1 月～12 月の利用内訳(利用目的)

利用目的	申込件数		総利用時間	
	(件)	構成比	(h)	構成比
体操	42	13.8%	69	7.5%
ダンス	74	24.3%	122	13.3%
空手	86	28.3%	209	22.9%
会議・打合せ	53	17.4%	241	26.4%
式典・催物	37	12.2%	212	23.2%
食事会	4	1.3%	16	1.8%
その他	8	2.6%	45	4.9%
合計	304	100.0%	914	100.0%

資料:「石狩市公共施設予約サービス」実績データ

## ②石狩市 B&G 海洋センタープールの利用状況

石狩市 B&G 海洋センタープールは7月、8月の夏期のみ利用できるプール施設であり、開館時間は10時から20時30分まで、火曜日は15時から17時のみの開館となっています。

入館料は一般200円(中学生以下無料)で、午前・午後1・午後2・夜間という2時間ごとの時間区分を跨いで利用する際は追加の入館料が必要となります。

花川小学校・緑苑台小学校の4～6年生のプール授業のほか、(公財)石狩市スポーツ協会により、水泳教室が行われています。

石狩市 B&G 海洋センタープールの利用者数は平成27年度(2015年度)には6,000人を超えていましたが、年々減少し、令和元年度(2019年度)には約4,600人となり、その後令和2年度(2020年度)から令和4年度(2022年度)は新型コロナウイルス感染症の対策のため休館していました。

令和5年度(2023年度)から利用を再開し、令和6年度(2024年度)の利用者数は約4,900人となっています。

令和6年度(2024年度)の利用者数をみると、利用時間帯では午後2(15時から17時)の利用が多くなっています。

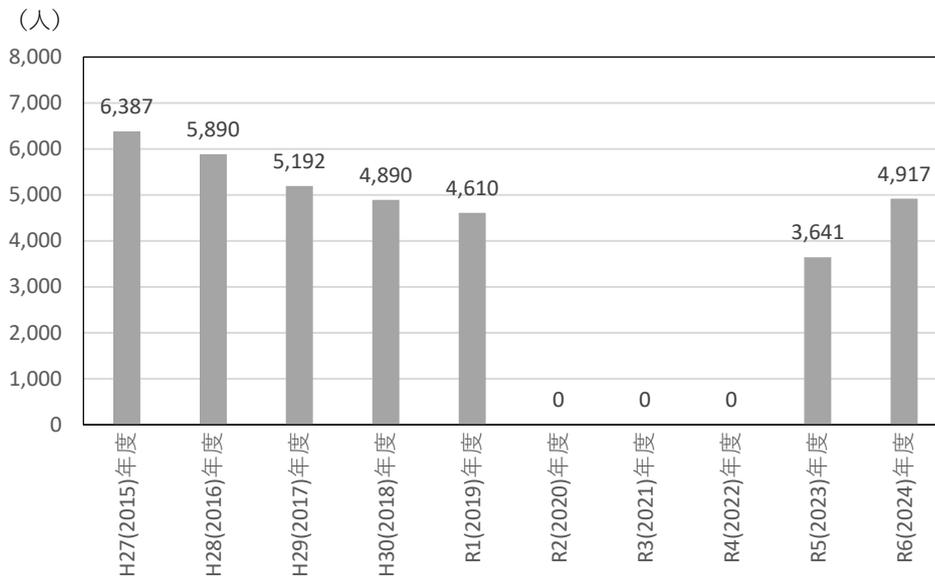


図 石狩市 B&G 海洋センタープールの年度別利用者数

資料:石狩市スポーツ協会資料

表 石狩市 B&G 海洋センタープールの令和6年度(2024年度)利用者数内訳

区分	時間帯				合計
	午前 (10~12時)	午後1 (13~15時)	午後2 (15~17時)	夜間 (18~20時半)	
一般	77	65	80	76	298
教室	12	44	69	150	275
学校 <sup>(注)</sup>	0	173	977	0	1,150
無料	290	960	1,857	87	3,194
合計	379	1,242	2,983	313	4,917

注:小学校4～6年生のプール授業。 資料:石狩市スポーツ協会資料

### (3) アンケート調査結果に基づく市民ニーズ把握

#### ① 調査の目的

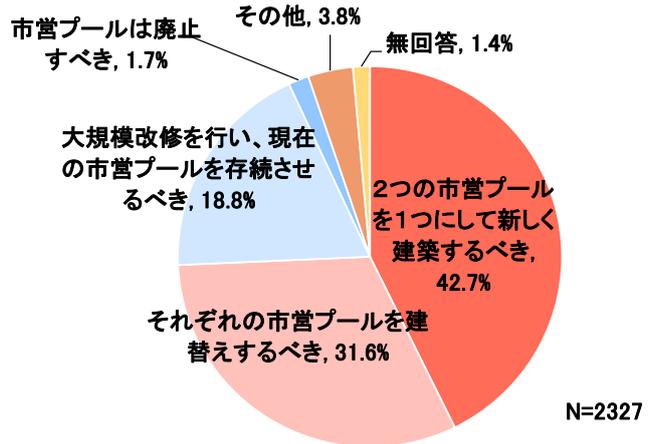
石狩市内にある二つの市営プール「石狩市民プール」および「石狩市B&G海洋センタープール」の再整備を検討するにあたり、市民および利用者の皆様からご意見を伺い、整備計画の参考とするための基礎資料とすべく、令和6年度にアンケート調査を実施しました。

そのアンケート結果から、一部集計結果を抜粋します。

#### ② 石狩市営プール(石狩市民プールと石狩市 B&G 海洋センタープール)の整備について

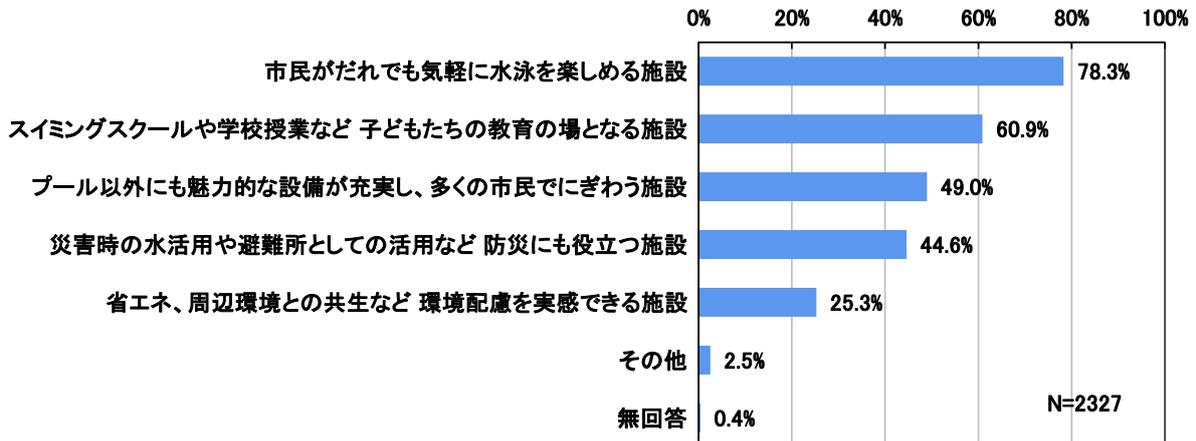
##### i) 市営プールを今後どう整備すべきか

今後市営プールをどのように整備すべきかについて、「2つの市営プールを1つにして新しく建築すべき」が42.7%と最も多く、次いで「それぞれの市営プールを建替えるべき」が31.6%、「大規模改修を行い、現在の市営プールを存続させるべき」が18.8%と続きます。



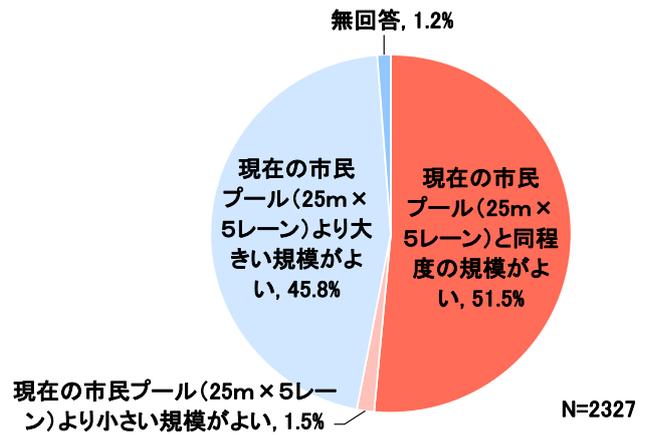
##### ii) どのような市営プールを整備すべきか(複数回答可)

どのような市営プールを整備すべきかについて、「市民がだれでも気軽に水泳を楽しめる施設」が78.3%と最も多く、次いで「スイミングスクールや学校授業など子どもたちの教育の場となる施設」が60.9%と続きます。



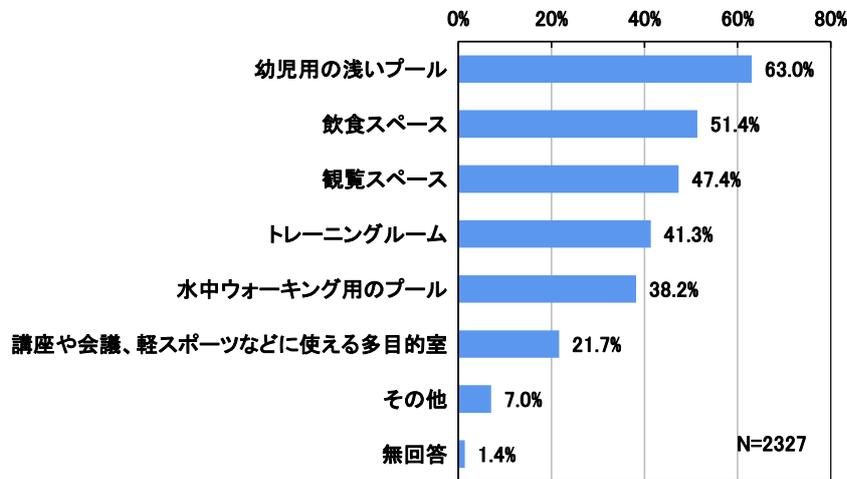
### iii) 整備するプールの規模

整備するプールの規模は、「現在の市民プールと同程度の規模がよい」が最も多く、51.5%、「現在の市民プールより大きい規模がよい」が45.8%であり、「現在の市民プールより小さい規模がよい」は1.5%です。



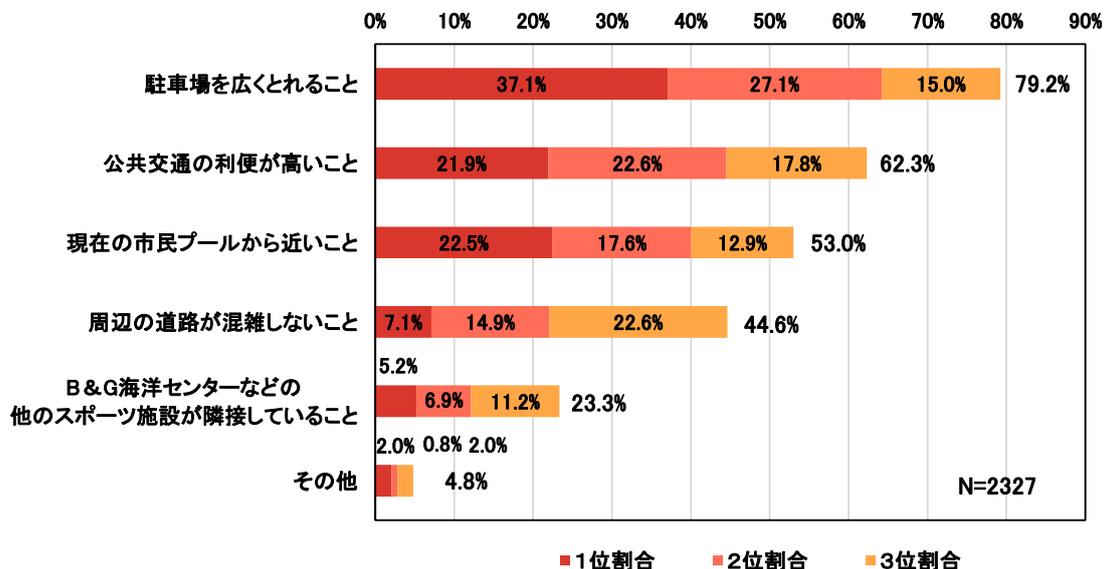
### iv) 「あったら良い」と思う設備や機能(複数回答可)

メインプール以外にあったら良いと思う設備や機能について、「幼児用の浅いプール」が63.0%と最も多く、次いで「飲食スペース」が51.4%、「観覧スペース」が47.4%と続きます。



### v) 建替え先を選ぶにあたって重視すべきこと

建替え先を決めるにあたって重視すべき視点について、1位から3位まで選択肢から選んでもらいました。1位から3位までに挙げられている割合を見ると、「駐車場を広く取れること」が最も多く79.2%、次いで「公共交通の利便が高いこと」が62.3%、「現在の市民プールから近いこと」が53.0%と続きます。



#### (4)利用者ニーズ(市営プール整備に関する意見交換等)

##### ①目的

石狩市営プール整備について、プールの利用に関係する団体の皆様から意見を伺い、整備計画の参考とするため、意見交換等を実施しました。

##### ②開催日時・場所

日時：令和7年9月29日(月) 18時00分～19時30分

場所：石狩市総合保健福祉センター りんくる 2階 交流活動室

##### ③出席団体

市内小学校／認定こども園／児童館／高齢者・障がい者団体／福祉事業者／まちづくり団体／ボランティア団体／スポーツ団体／町内会

##### ④概要

基本構想の整備方針について説明したのちに、A班からD班の4班に分かれてグループワークを実施し、具体的な整備内容や建設候補地、必要諸室などについて意見交換が行われました。

##### ⑤主な意見内容

###### i) A班

###### 【整備するプールや機能について】

- ・レーン数は現市民プール(5レーン)以上のレーン数を希望する。
- ・こども用プールや浅いレーンの設備、トレーニング室や交流機能(カフェ等)を導入してほしい。

###### 【建設候補地について】

- ・りんくる横は交通利便性が高く好適である。
- ・B & G海洋センター横はアクセスに懸念がある。

###### 【運営面について】

- ・運営面では省エネなど持続可能な運営に配慮してほしい。

###### ii) B班

###### 【整備するプールや機能について】

- ・幼児用の浅いプールや、こどもが楽しめる滑り台等を設置してほしい。
- ・観覧席や見学スペースを充実させてほしい。
- ・採暖室を今よりも広くて暖かくするべきである。

###### 【整備敷地について】

- ・高齢者に配慮した立地選定や施設配置をするのが望ましい。

###### 【運営面について】

- ・利用料金を安くしてほしい。

### iii) C 班

#### 【整備するプールや機能について】

- ・ウォーキングレーンを整備してほしい。
- ・メインプールのほかに、こどもが泳げる浅いレーンも必要である。
- ・プール後に温まるための採暖室やジャグジーを充実させてほしい。
- ・駐車場を広くしてほしい。
- ・多目的トイレや多目的更衣室を設置してほしい。

### iv) D 班

#### 【整備するプールや機能について】

- ・滑り台があって遊べる施設とするのが望ましい。
- ・温浴施設やジム等を併設し、健康づくりの拠点としてはどうか。
- ・ユニバーサル対応のトイレ、多目的更衣室、スロープ等、バリアフリーの整備をしてほしい。
- ・シャワー設備を今よりも増やしてほしい。
- ・採暖室を広くしてほしい。

#### 【整備敷地について】

- ・りんくる横が望ましい。



図 市営プール整備に関する意見交換等の状況

## (5)利用者ニーズ(個別団体ヒアリング)

### ①目的

石狩市営プール整備について、プールの利用に関係する団体の皆様から意見を伺い、整備計画の参考とするため、個別団体ヒアリングを実施しました。

### ②実施時期

令和7年10月

### ③ヒアリング団体

市内小学校／認定こども園／高齢者・障がい者団体／福祉事業者  
ボランティア団体／スポーツ団体

### ④主な意見内容

基本構想の整備方針については各団体から前向きな意見が多く得られました。また、各団体においては市営プール整備後のプール利用を想定しながら、プール整備内容や必要諸室等について以下のような意見が出されました。

表 個別団体ヒアリング 主な意見内容

項目	主な意見
メインプール	<b>【水深・レーン運用】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・遊泳指導のために、赤台を使用した水深70cmのレーンが1レーンあると良い。</li><li>・小学校低学年は水深70cm程度、小学3年生以上は水深110cmのプールで問題なく使用できる。低学年の使用時は、水深70cmのレーンが1～2レーンと水深60cmのこども用プール、高学年の使用時は、水深70cmのレーンが1～2レーンと110cmのコースがあれば問題ない。</li><li>・ウォーキング利用には、現市民プールの水深110cmで問題ない。</li></ul> <b>【レーン数】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・現市民プールのレーン数(5レーン)以上が望ましい。</li><li>・大会等を開催する場合、6レーンあれば満足に開催ができる。</li></ul>
こども用プール(50～60cm)・滑り台	<b>【こども用プール】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・浅いプールがあれば小学1,2年生が使用する。</li><li>・遊泳指導するうえで、あると良い。</li></ul> <b>【滑り台】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・授業中の遊ぶ時間に使用できるのではないか。</li><li>・遊びにも使用できることから、大人でも楽しめる滑り台としてほしい。</li></ul>
幼児用プール(水深30cm)	<ul style="list-style-type: none"><li>・プールが苦手な園児や、障がいのある園児が水遊びで使用できる。</li></ul>

項目	主な意見
プール以外の諸室・機能	<p>【更衣室】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般更衣室と別に着替える部屋や男女の着替え場所を仕切る仕切りがあると良い。</li> <li>・多目的更衣室があると良い。スイッチによる開閉が出来ると望ましい。</li> </ul> <p>【トイレ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士と一緒に入り、介助ができる広さの多目的トイレや、保育士が一斉に見守れるように複数の幼児用トイレがあると良い。</li> <li>・多目的トイレがあると良い。スイッチによる開閉が出来ると望ましい。</li> </ul> <p>【採暖室】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園児が一斉に入れる採暖室があると良い。</li> <li>・寒さを感じた児童が利用できるよう、採暖室の設置が必要である。</li> <li>・現市民プールより広く暖かいほうが良い。</li> </ul> <p>【シャワー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シャワー待ちが発生しないよう、児童が一斉に浴びられるシャワーがあると良い。</li> <li>・シャワー待ちが発生しないよう、シャワー数を増やしてほしい。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリでの利用や、高齢者の健康増進目的の利用ができるよう、トレーニング室を整備してほしい。</li> <li>・観覧室は、プール内が暑いため、2階にガラスを隔てた形であると良い。</li> <li>・監視室は、全体が見渡せる位置に配置してほしい。</li> </ul>
つくり・動線等	<p>【動線等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プールから更衣室までの通路が寒く、直接つながると望ましい。</li> </ul> <p>【プール出入り口のスロープ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設置が必要である。赤台を設置する浅いレーン側から入れる工夫があると良い。</li> <li>・ウォーキングレーンにスロープと階段を設置してほしい。</li> </ul> <p>【プールサイド】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人がすれ違える程度の広さを確保してほしい。</li> <li>・現市民プールの左側の広さと同程度の広さが右側にもあると良い。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者や高齢者の利用を想定し、ユニバーサルデザインに重点を置いてほしい。手すり、スロープ、水中用の車いす、多目的更衣室、多目的トイレ等を整備してほしい。</li> </ul>
その他機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全第一であり、AIカメラなどがあれば安心である。</li> <li>・こどものプールの待ち時間に親が利用できるよう、カフェ等があると良いのではないか。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場は現市民プールより広いほうが良い。</li> <li>・計画敷地内の桜の木を植樹可能な範囲で移植してほしい。</li> </ul>

(6) プールを取り巻く課題のまとめ

石狩市および現施設の現況、アンケート調査結果およびヒアリング結果などを踏まえ、「社会状況の視点」、「利用者の視点」、「管理者の視点」の3つの視点から課題を整理しました。

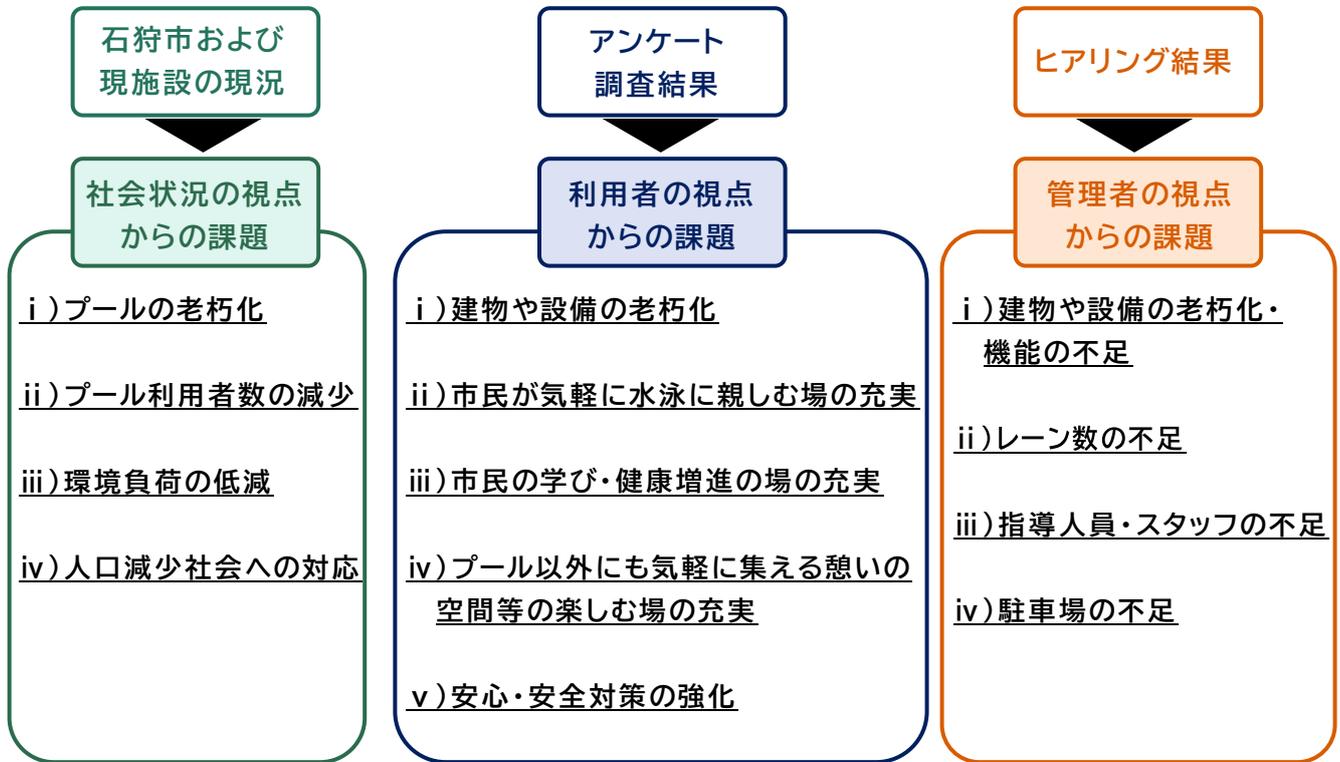


図 プールを取り巻く課題

## ① 社会状況の視点から

### i) プールの老朽化

石狩市民プールは昭和 62 年(1987 年)に、石狩市 B&G 海洋センタープールは平成 4 年(1992 年)に建設されています。どちらも築30年以上が経過し、経年劣化によるプール槽の損傷や防水シートの破損等が多数見られ、安全面や設備状況等を踏まえると、老朽化への対応が求められています。

表 既存プール施設の不具合箇所

対象施設	不具合箇所
石狩市民プール	<ul style="list-style-type: none"><li>・プール水槽から水が浸み出す状況にある。約半月休館して応急処置を行ったが、いずれ根本的に修理する必要がある。</li><li>・水循環で砂が混入し、利用者から苦情が入っている。現在は清掃で対応している。</li><li>・屋根の雨漏りは無いが、外壁に亀裂が入っている部分がある。</li><li>・空調に異音が発生している。</li><li>・LGBT 配慮設備が足りていない。現状は多目的トイレで対応している。</li></ul>
石狩市 B&G 海洋センタープール	<ul style="list-style-type: none"><li>・上屋シートの劣化が見られ、交換が必要。</li><li>・鉄骨に錆が浮き、プールに落ちてきており、錆取り塗装が必要。</li><li>・照明が水銀灯を使用しており、LED への交換が必要。</li><li>・漏電があり、配線の検査が必要。</li><li>・暖房機に燃料漏れなどがあり、交換が必要。</li><li>・プールサイドの床面がひび割れている。</li></ul>

資料：施設管理者ヒアリング結果より

### ii) プール利用者数の減少

石狩市民プールおよび石狩市 B&G 海洋センタープールの利用者数はともに減少を続けており、石狩市 B&G 海洋センタープールの利用者数は平成 27 年度(2015 年度)と比べると8割弱となっています。より多くの市民が使いやすい、使いたくなるような施設が求められています。

### iii) 環境負荷の低減

地球温暖化等が進行する中、脱炭素の実現や LCC(ライフサイクルコスト)を抑えた持続可能な施設整備が求められています。

### iv) 人口減少社会への対応

石狩市においては、平成 17 年(2005 年)以降人口減少が進み、今後も減少が続くことが予測されています。人口減少が進む中、公共施設の管理の効率化や周辺施設との連携等を考慮した施設整備が求められています。

## ② 利用者の視点から

### i) 建物や設備の老朽化

市民アンケート調査の結果、現在の市営プールの問題点や課題として、約 42.8%と最も多くの人々が、「建物や設備が古い」と回答しています。多くの人々が、建物の老朽化による衛生面や安全面の不安、行きづらさ等に言及しており、対応が求められます。また、今後の整備方針に関する設問では、74.3%の人が「新しく建築すべき」もしくは「建替えるべき」と回答しており、新しい施設の建設が求められています。

### ii) 市民が気軽に水泳に親しむ場の充実

市民アンケート調査の結果、どのような市営プールを整備すべきかについて、78.3%と最も多くの人々が「市民がだれでも気軽に水泳を楽しめる施設」と回答しています。また、現在プールに行く目的として、最も多くの 51.0%の人が「プールでの遊び」と回答しており、市民が気軽に楽しめる場としての施設が求められています。

### iii) 市民の学び・健康増進の場の充実

市民アンケート調査の結果、どのような市営プールを整備すべきかについて、60.9%と半数以上が「スイミングスクールや学校授業など子どもたちの教育の場となる施設」と回答しています。また、自由意見において、「スイミングスクールの充実」や「高齢者の健康づくり」に関する意見が多く寄せられたことから、こどもから高齢者までの学びや健康増進の場が求められています。

### iv) プール以外にも気軽に集える憩いの空間等の楽しむ場の充実

市民アンケート調査の結果、どのような市営プールを整備すべきかについて、49.0%と約半数が「プール以外にも魅力的な設備が充実し、多くの市民でにぎわう施設」と回答しており、プール以外にも気軽に集える憩いの空間等の楽しむ場が求められています。

### v) 安心・安全対策の強化

市民アンケート調査の結果、市営プールのありかたについての自由意見においても、こどもが安心・安全に楽しめる施設が求められています。

### ③ 管理者の視点から

#### i) 建物や設備の老朽化・機能の不足

施設は築 30 年以上経過し、老朽化が進んでいます。石狩市民プールにおいては水槽や水循環器の不具合、外壁の亀裂等の不具合が、石狩市 B & G 海洋センタープールにおいては上屋シートの縮小等が確認されています。また、監視員の休憩室が十分ではない状況となっており、施設の老朽化や機能不足への対応が求められています。

#### ii) レーン数の不足

現市民プール(5 レーン)では、教室の時間帯において一般開放が 1 レーンのみ利用となっている状況にあります。

#### iii) 指導人員・スタッフの不足

スクールへの入会要望はあるものの、指導人員が不足しており、スクールを増やせない状況にあります。

#### iv) 駐車場の不足

石狩市民プールにおいては駐車場が現在 10～15 台ほどしかなく、送迎時間などの満車時は隣接する花川北コミュニティセンターの駐車場を使用しています。しかし、イベント時や市民大会開催時は駐車場が足りず、対応が必要な状況にあります。

### (7) プールの統合再整備の結論について(まとめ)

現在の石狩市民プール及び石狩市 B & G 海洋センタープールの 2 か所の市営プールは、ともに築 30 年以上が経過し、構造部材や各種設備の経年劣化が著しく進んでいる状況にあります。

仮に現在の 2 か所のプールを存続すべく、改修工事や老朽設備の更新などを行った場合でも、その寿命延長効果は限定的であり、改修工事後も引き続き、各設備の改修や機器の更新などが必要となってくることが想定されます。

また、改修工事を行う際は、水泳教室の一時休止や一般利用の停止が避けられず、市民サービスへの影響も大きいと見込まれます。

さらに、市民アンケート調査結果において、市民の声からも「2 つの市営プールを 1 つにして新しく建築するべき」との意見が最も多く寄せられていることや、現在の 2 か所のプールについて、利用者数や時間帯別稼働状況などの運営状況を精査した結果、プールを 1 つに統合した場合でも運営上支障が生じないことを確認しています。

以上のとおり、老朽化の問題、市民の意見、利便性、運営面、市の財政負担など、総合的に勘案した結果、現在の 2 か所のプールをそれぞれ改修して維持するのではなく、2 施設を統合した新たな市営プールとして再整備することが妥当と判断しました。

## 第2章 再整備に関する基本的な考え方

### 2-1 基本方針

意見交換やヒアリングなど利用者ニーズの把握において、市の整備方針に対し前向きな意見が多く得られたことから、「基本構想」と同様に以下の基本方針と5つの視点に基づき施設整備を進めていきます。

こどもをはじめとした市民誰もが安心・安全に水泳等を楽しむとともに、心身の健康増進や多様な目的で気軽に集える憩いの空間として、世代を超えたふれあいの拠点づくりを目指す



図 基本方針をふまえた整備に関する5つの視点

#### (1) 市民が気軽に集える楽しむ場

メインプールに加え、幼児用プールを整備することで、市民が気軽に集い、水泳をはじめとするレジャーを楽しめる場とするとともに、プール以外でも多様な目的で訪れ、楽しむことができるふれあいの場を目指します。

#### (2) 市民の学び・健康増進の場

水泳教室やエクササイズ、水中ウォーキング、その他スポーツを通じて市民が学び、健康を増進できる場を整備するとともに、学校の水泳授業やプール以外のスポーツ利用も含め、市民の多様な学びと健康づくりを支える施設を目指します。

#### (3) インクルーシブな施設の整備

こどもから高齢者、障がいのある方まで、すべての市民が安心・安全に楽しみ、健康増進に取り組めるよう、ユニバーサルデザインやバリアフリーを取り入れ、誰もが快適に利用できるインクルーシブな施設の整備を進めます。

#### (4) 環境に考慮した施設整備

市の脱炭素化(ゼロカーボン)の推進をふまえ、環境負荷の低減と施設の維持管理のしやすさを両立するため、LCC(ライフサイクルコスト)やLCCO<sub>2</sub>(ライフサイクルCO<sub>2</sub>)の抑制にも配慮した、持続可能な施設整備を目指します。

#### (5) 周辺施設との連携を意識した整備

人口減少が進む中で持続可能で魅力あるまちづくりを実現するため、周辺施設との連携や機能強化につながる建設敷地の選定を行い、市全体の魅力向上に寄与する施設整備を目指します。

## 2-2 導入機能

### (1)メインプール

市民の一般利用、学校水泳授業等の利用を想定し、25メートルプールを設置します。

### (2)幼児用プール

身長のない幼児でも安全に水に親しめる場として、水深の浅いこども用プール・幼児用プールを設置します。

### (3)滑り台等の遊べる設備

幼児や小学生が遊ぶ場として利用できるような、滑り台等の遊べる設備を設置します。

### (4)健康増進機能のあるプール

水中ウォーキング用等の健康増進機能のあるプールを設置します。

### (5)十分な広さの駐車場

送迎時やイベント時においても十分な広さの駐車場を確保します。

### (6)トレーニングルーム

市民の健康増進の場として、運動できる設備を備えたトレーニングルームを設置します。

### (7)多目的室

会議や集会、軽い運動、各種イベントでの使用等、様々な用途で使用可能で、地域交流や地域活動、健康増進の場となる多目的室を、複合施設の検討と合わせて設置します。

### (8)飲食・休憩・交流スペース

プール前後での飲食・休憩のほか、プール利用に関わらず、市民が気軽に集い楽しめる場として、飲食や休憩、交流できるスペースを設置します。

### (9)その他

プールの必要施設として、更衣室、観覧スペース、シャワー室、採暖室、多目的更衣室やトイレ等の設備を設置します。

## 第3章 整備計画

---

### 3-1 必要諸室の機能・規模・留意点

石狩市営プールを構成する必要諸室と設備について、その求められる機能と規模、設置にあたっての留意点を以下に整理します。

#### (1) プール室・関連機能

##### i) メインプール

- ・「メインプール」は、市民の一般利用や水泳教室、水中ウォーキング、小学校の水泳授業などの様々な利用ニーズに応えるプールとします。
- ・温水プールとします。
- ・25メートル短水路とします。
- ・本市の人口、需要数および、市民アンケートでの「現在の市民プール(5レーン)と同程度またはそれ以上が良い」との結果等を考慮し、レーン数は6レーンを基本とします。レーン幅は2.0m程度とし、ロープ等の設置により区分を明確にできるようにします。
- ・水深は110cm～120cm程度とします。
- ・小学校児童や園児などを対象とした水泳教室や水泳授業等での利用を考慮し、職員により移動可能なプールフロア(通称:赤台)を一部に設置し、水深を70cm程度に調整できるようにします。
- ・レーンの一部を水中ウォーキングレーンとして健康増進活動にも使用し、利用者数や時間帯に応じて柔軟に運用します。
- ・高齢者、障がい者、介助が必要な方など誰もが使いやすいユニバーサルデザインの観点から、出入スロープ等を設置します。

##### ii) こども用プール

- ・「こども用プール」は、メインプールを利用するには身長が足りない幼児や低学年児童でも安全に水に親しめる場として、また、親子連れが楽しめる場とします。
- ・「こども用プール」は、メインプールとは独立して設置します。
- ・温水プールとします。
- ・水深は50cm～60cm程度とします。
- ・幼児や児童が遊ぶために滑り台(ウォーターライダー等)の遊具を設置します。また、遊具利用者と遊泳者の接触を防ぐための柵など、必要な安全対策設備を設置します。
- ・こども園の集団利用を想定し、利用可能面積は80㎡程度とし、滑り台の水上部分・着水部分10㎡を加えて、水面面積は90㎡程度とします。

##### iii) 幼児用プール

- ・市民アンケートにて「幼児用の浅いプール」を求める意見が多かったこと等から「幼児用プール」を設置し、3歳以下の幼児と保護者が水遊びを楽しめる場とします。
- ・「幼児用プール」は、こども用プールと併設して設置します。
- ・温水プールとします。
- ・水面面積は20㎡程度とします。
- ・水深は30cm程度とします。

#### iv) プールサイド

- ・「プールサイド」は、準備体操の場所、学校プール授業での児童待機場所、市民水泳大会での応援・待機場所など、多人数での利用にも対応できる十分なスペースを確保することとします。
- ・「プールサイド」の幅は4m程度確保することを基本とします。
- ・更衣室からプールサイドへ向かう動線上に洗体用のシャワー等を設置します。
- ・ベンチやタオル置き場など必要な備品等を適宜設置します。

#### v) 採暖室

- ・水泳で冷えた身体を暖める室として、「採暖室」をプールサイドに面した位置に設けます。
- ・利用者が座って利用できるよう木製ベンチ等を設置します。
- ・ユニバーサルデザインの観点から、高齢者、障がい者、介助が必要な方など誰もが使いやすいように、開口部や室内の形状、仕様等について一体的に配慮したものにします。
- ・利用状況等に応じて適切な温度設定ができる設備とします。
- ・床・壁・排水設備・暖房設備・換気設備など衛生的かつ効率的に管理・使用ができる設備とします。

#### vi) 更衣室(一般更衣室および多目的更衣室)

- ・「更衣室」は、男女別の「一般更衣室」と「多目的更衣室」を別々に設置します。
- ・一般更衣室は、男女別の想定利用者数に応じた十分な広さを確保します。
- ・「多目的更衣室」の利用者は、障がいを持つ方と介助者、異性親子(母と男児、父と女児)、LGBTQの方などを想定し、プライバシーが確保される配置・構造として設置します。
- ・「一般更衣室」と「多目的更衣室」には、ロッカー・シャワー・トイレ・洗面台・水飲み設備など必要な設備と備品を設置します。

## (2)管理設備

### i)受付／事務室

- ・ 利用料金徴収など利用者対応を行う「受付」と、プール管理・運営業務を行う「事務室」を設置します。
- ・ 「受付」はエントランスホールに面し、更衣室への利用者出入りを視認できる配置とします。
- ・ 「事務室」は「受付」と隣接した配置とします。
- ・ 個人情報を扱うため、プライバシーが確保できるように配慮します。

### ii)監視室

- ・ 監視室は、安全管理・事故防止のため、プール室全体を見渡すことができる位置とし、緊急時にプールサイドに速やかに出入りできる出入口を設置します。
- ・ 監視室内には、プール室に注意喚起放送ができる放送設備や、監視員の更衣設備を確保し、監視員を補助する「AI 監視システム(3-4設備計画で後述)」の導入を検討します。
- ・ プール利用者の怪我や急病に備え、救急医薬品やベッド、救命具等を備えます。

### iii)倉庫・物品庫

- ・ プール用具類を保管する「倉庫・物品庫」を設置します。
- ・ プールサイドに面した位置に配置し、プールサイド側に出入口を設置します。
- ・ 床・壁・天井・換気設備などは、結露による障害が生じないよう、衛生的かつ効率的に管理・使用ができる設備とします。

### (3)一般開放共用部

#### i) エントランスホール

- ・「エントランスホール」は、プール利用前後での飲食・休憩、送迎者との待ち合わせなどで、着席してくつろげる場所として設置します。
- ・プール利用有無に関わらず、市民が気軽に集い、交流できる空間として活用します。
- ・土足利用を前提とし、床は汚れや水、摩擦に強く、かつ滑りにくい素材とします。
- ・飲食スペースとして移動可能なテーブル・椅子を設置します。
- ・親子連れが快適に時間を過ごせるように、キッズスペースを設置します。
- ・手洗い水道設備、自動販売機、フリーWi-Fiを設置します。

#### ii) 観覧スペース・観覧席

- ・「観覧スペース・観覧席」は、水泳教室の児童・生徒に対する保護者のプール観覧や、市民水泳大会等のイベントにおける観覧のための場所として設置します。
- ・「観覧スペース」は、エントランスホールに面した配置とし、主に水泳教室に通う児童の送迎に来た保護者による短時間の利用を想定します。プール室とはガラス窓で仕切られた構造とします。車いすの方による観覧などを想定し、バリアフリー・ユニバーサルデザインの考え方に沿い、誰もが利用しやすいものとします。
- ・「観覧席(着座)」はメインプールを見渡すことができる配置とし、主にイベント時の観覧や水泳の見学での長時間の利用を想定します。「観覧席」は入退場を管理可能な配置とします。

#### iii) トイレ

- ・来館者が使用するための男女別トイレ、多目的トイレを設置します。
- ・多目的トイレは、障がい者、トイレ介助が必要な方、LGBTQの方などの利用を想定します。
- ・幼児用便器または幼児用トイレを設置します。
- ・バリアフリー・ユニバーサルデザインの考え方に沿い、誰もが利用しやすいものとします。また、効率的に清潔が保たれる設備とします。

#### iv) 授乳室・おむつ替え室

- ・乳幼児連れの来館者が使用するための「授乳室・おむつ替え室」を設置します。

#### v) 販売コーナー

- ・利用者が、水泳用品等を購入できる「販売コーナー」を設置します。
- ・利用者と管理者の双方の利便性を考慮した配置とします。

#### (4)付帯機能(貸室)

##### i)トレーニング室

- ・「トレーニング室」は、ランニングマシンやエアロバイク等のトレーニング機器を備え、プール利用の有無にかかわらず利用できる部屋とします。

##### ii)多目的室

- ・「多目的室」は、ダンス・空手・ストレッチ・ヨガ・健康体操教室など様々な運動ができる部屋として設置します。さらに、各種ミーティングなど運動以外の用途でも使用することを想定します。
- なお、会議や集会を目的とした多目的室は、複合施設と合わせて検討します。

#### (5)外部

##### i)駐車場(一般用・身障者用・大型車用・業務用)

- ・ プール利用者の駐車需要を十分に満たせる駐車場を整備します。近傍に市役所等の駐車場があることから、イベント時にはそれらの駐車場も活用することで、効率的な駐車場運用を行います。
- ・ 身障者用駐車場は、施設出入口に近くアクセスしやすい位置とします。積雪期や悪天候時の安全性・利便性にも配慮し、バリアフリー化された入退場動線を確保します。
- ・ 学校・認定こども園利用による大型バスが複数台駐車できるように大型車用駐車スペースを設けます。駐車スペースから出入口エントランスまで、児童や園児が安全に移動できる通路を整備します。
- ・ 物品搬入・搬出トラック用の業務用車両の駐停車スペースを配置します。
- ・ 積雪寒冷地として、駐車場内または隣接敷地に堆雪スペースを十分に確保し、除雪のしやすさと利用者の利便性に配慮した駐車場配置とします。
- ・ 以上を踏まえ、一般用及び身障者用の駐車場台数は、石狩市民プールの時間帯別の最大利用者数に基づいて算定し、50台と設定します。

表 駐車台数の設定

① プールの最大利用者数		37人
② トレーニング室の利用者数	想定	10人
③ 多目的室の利用者数	想定	10人
④ 利用者数 計	①+②+③	57人
⑤ 自動車換算原単位 (台/人)		80%
⑥ 利用者の最大駐車台数	④×⑤	46台
⑦ 駐車場台数の設定 (端数切り上げ)		50台

##### ii)駐輪場

- ・ プール利用者のための駐輪場を整備します。

##### iii)植栽

- ・ 計画地内に現存している樹木や、ボランティア団体によって植樹されている樹木の移植・保全等を検討します。

(6)まとめ(諸室表)

必要諸室の規模を整理すると下表のとおりです。  
 新たな石狩市営プールは延べ床面積で約 2,600 m<sup>2</sup>と想定します。

表 規模設定

計画施設 機能	諸室	面積 (m <sup>2</sup> )	備考	設定の考え方	石狩市民プール		石狩市B&G海洋センタープール		
					諸室	面積 (m <sup>2</sup> )	諸室	面積 (m <sup>2</sup> )	
プール室・ 関連機能	プール室	プール	約515	メイン・子ども用・幼児用 (スロープ含む)	必要面積の積み上げ	プール	約594	プール	約863
		プールサイド	約550	※メインプール：6レーン (うち1・2レーンはウォーキングレーン)					
		シャワー	約20						
		計	約1,085						
	関連機能	採暖室	約25		事例等から設定	採暖室	約14	-	-
		更衣室 (男性)	約90	洗面・シャワー・便所を含む	必要面積の積み上げ	ロッカ-室 (男)	約44	男子更衣室	約63
更衣室 (女性)		約90	洗面・シャワー・便所を含む	必要面積の積み上げ	ロッカ-室 (女)	約66	女子更衣室	約57	
	更衣室 (多目的)	約50	洗面・シャワー・便所を含む	必要面積の積み上げ	-	-	-	-	
	<b>小計</b>	<b>約1,340</b>				<b>約718</b>		<b>約983</b>	
管理設備	受付/事務室	事務室	約60	救護室、指導室兼用	事例等から設定	事務室	約22		
		職員更衣室	約20		事例等から設定	従業員休憩室	約35		
	監視室	約20		現石狩市民プール (指導員控室) の 規模から設定	指導員控室	約15			
	倉庫・物品庫	約90		現石狩市民プール (倉庫・物品庫等) の 規模から設定	倉庫・物品庫	約84			
	<b>小計</b>	<b>約190</b>				<b>約156</b>			
一般開放 共用部	エントランスホール	ホール	約70		事例等から設定	ロビ-等	約174		
		飲食スペース	約75		事例等から設定				
		キッズスペース	約40		事例等から設定				
	観覧スペース・観覧席	約110		事例等から設定	-	-			
	トイレ	男・女・多目的	約50		事例等から設定	便所	約37		
		幼児用	約10		事例等から設定	-	-		
	授乳室	約10		事例等から設定	-	-			
<b>小計</b>	<b>約365</b>				<b>約211</b>				
付帯機能 (貸室)	トレーニング室	約200		ひんくる健康増進室 (168m <sup>2</sup> ) の 規模を参考に設定	-	-			
	多目的室	約100		現石狩市民プール (多目的ホール) の 規模・利用実態から設定	多目的ホール等	約360			
	<b>小計</b>	<b>約300</b>				<b>約360</b>			
その他	機械室等	機械室・電気室	約270		事例等から設定	機械室	約96		
	廊下等	廊下・階段・EV	約135		モデルプランによる検討を踏まえて設定	廊下等	約212		
	<b>小計</b>	<b>約405</b>				<b>約308</b>			
<b>合計</b>		<b>約2,600</b>				<b>約1,752</b>		<b>約983</b>	

## 3-2 計画地

### (1) 建設候補地

「石狩市営プール整備基本構想」では、下表に示す5つの市有地を建設候補地として比較検討し、本基本計画の策定時に決定することとしていました。

表 建設候補地の概要

	所在	面積	土地所有者
①	石狩市 B&G 海洋センター横 (花畔 337-3 の一部)	約 4,200 m <sup>2</sup>	石狩市
②	旧公民館跡地 (花川北6条1丁目 42 番地)	約 4,000 m <sup>2</sup>	石狩市
③	花川北中学校裏側 旧給食センター跡地 (花川北3条4丁目 130-1 の一部、130-2)	約 3,700 m <sup>2</sup>	石狩市 (一部学校用地)
④	現石狩市民プールの敷地 (花川北 3 条 2 丁目 198-3)	約 2,000 m <sup>2</sup>	石狩市
⑤	りんくる横空き地 (花川北6条1丁目 601 番地、602 番地の一部)	約 5,000 m <sup>2</sup>	石狩市

①石狩市 B&G 海洋センター横  
(約 4,200 m<sup>2</sup>)



②旧公民館跡地  
(約 4,000 m<sup>2</sup>)



③花川北中学校裏側  
旧給食センター跡地  
(約 3,700 m<sup>2</sup>)



④現石狩市民プールの敷地  
(約 2,000 m<sup>2</sup>)



⑤りんくる横空き地  
(約 5,000 m<sup>2</sup>)



図 建設候補地

## (2)建設候補地の比較評価

### ①評価項目

5つの建設候補地について、下表に示す項目で比較し検討を行います。

表 評価項目

評価の観点		評価項目	評価基準
安全性	災害ハザードに含まれていないか	洪水浸水想定区域	浸水想定区域に含まれない場合は○
		津波浸水想定区域	浸水想定区域に含まれない場合は○
		土砂災害特別警戒区域・警戒区域	土砂災害特別警戒区域・警戒区域に含まれない場合は○
機能性	敷地形状は使いやすいものか	敷地形状	整形の場合は○
	敷地面積に十分な面積があるか	敷地面積	現石狩市民プールの建築面積と比較し、十分な敷地面積がある場合は○、特に優位な場合は◎
	十分な駐車台数を確保できるか	外構面積(敷地面積－建築面積(現状))	現石狩市民プールの駐車台数と比較して、多くの台数を駐車できる面積を有する場合は○
利便性	近隣施設と一体的な利用が可能か	敷地近隣(100m 圏程度)に立地する生活利便施設／スポーツ施設の立地状況	生活利便施設(商業、医療、子育て支援施設、公共施設)やスポーツ施設が、半径 100m 程度の圏内に立地している場合は○、特に優位な場合は◎
	各地区からのアクセスが良いか	学校区別人口数で加重平均した各小学校から建設候補地までの平均距離	旧石狩市内の小学校区で算定し、平均距離が短い場合は○
	公共交通からアクセス性の良い立地か	最寄のバス停との距離	建設候補地から徒歩圏内(半径 300m 圏)に立地し、札幌等の各方面と結ぶバス路線が多く運行している場合は○
都市計画	都市計画・用途地域上の立地制約はあるか	都市計画・用途地域の指定状況	現状の指定状況で建設可能な場合は○
実現性	事業推進上における課題はないか		特に大きな課題がなく建設可能な場合は○

②比較検討結果

前述の項目で比較した結果は、下表のとおりです。安全性・機能性・利便性・都市計画・実現性の各観点の評価から総合的に判断して、「⑤りんくる横空き地」が最も評価が高く、また、意見交換等や個別団体ヒアリングなどの利用者ニーズの把握においても、「⑤りんくる横空き地」をプールの建設候補地とすることに対して前向きな意見が多く得られたことから、建設の計画地に決定します。

表 建設候補地の比較

評価項目		①石狩市 B&G 海洋センター横	②旧公民館跡地	③花川北中学校裏、旧給食センター跡地	④現石狩市民プールの敷地	⑤りんくる横空き地
安全性	洪水浸水想定区域	含まれない	含まれない	含まれない	含まれない	含まれない
	評価	○安全性が確保されている	○安全性が確保されている	○安全性が確保されている	○安全性が確保されている	○安全性が確保されている
	津波浸水想定区域	含まれない	含まれない	含まれない	含まれない	含まれない
	評価	○安全性が確保されている	○安全性が確保されている	○安全性が確保されている	○安全性が確保されている	○安全性が確保されている
機能性	敷地形状は使いやすいものか	整形	整形	不整形	不整形	整形
	評価	○整形で使いやすい	○整形で使いやすい	▲不整形で使用のしやすさに制限あり	▲不整形で使用のしやすさに制限あり	○整形で使いやすい
	敷地面積に十分な面積があるか ※現石狩市民プールの建築面積(約 1,210 m <sup>2</sup> )を用いた評価	敷地面積: 約 4,200 m <sup>2</sup> 建築面積: 約 1,210 m <sup>2</sup> (共通) →建蔽率: 28.8% < 60%(指定建蔽率)	敷地面積: 約 4,000 m <sup>2</sup> 建築面積: 約 1,210 m <sup>2</sup> (共通) →建蔽率: 30.3% < 80%(指定建蔽率)	敷地面積: 約 3,700 m <sup>2</sup> 建築面積: 約 1,210 m <sup>2</sup> (共通) →建蔽率: 32.7% < 60%(指定建蔽率)	敷地面積: 約 2,000 m <sup>2</sup> 建築面積: 約 1,210 m <sup>2</sup> (共通) →建蔽率: 60.5% < 80%(指定建蔽率)	敷地面積: 約 5,000 m <sup>2</sup> 建築面積: 約 1,210 m <sup>2</sup> (共通) →建蔽率: 24.2% < 80%(指定建蔽率)
	評価	○敷地に余裕があり、自由度高く建設が可能	○敷地に余裕があり、自由度高く建設が可能	○敷地に余裕があり、自由度高く建設が可能	▲現状と同規模となり、建設に制約が生じる	○敷地が最も広く、自由度高く建設が可能
十分な駐車場の確保が可能か	駐車場含めた外構面積: 約 2,990 m <sup>2</sup> (4,220-1,210)	駐車場含めた外構面積: 約 2,790 m <sup>2</sup> (4,000-1,210)	駐車場含めた外構面積: 約 2,490 m <sup>2</sup> (3,700-1,210)	駐車場含めた外構面積: 約 790 m <sup>2</sup> (2,000-1,210)	駐車場含めた外構面積: 約 3,790 m <sup>2</sup> (5,000-1,210)	
評価	○現状より十分な駐車台数の確保が可能	○現状より十分な駐車台数の確保が可能	○現状より十分な駐車台数の確保が可能	▲現状と同規模となり、駐車台数が不足している現状の改善につながらない	○敷地が最も広く、現状より十分な駐車台数の確保が可能。さらに市庁舎駐車場との連携が可能。	
利便性	敷地近隣(100m 圏程度)での施設立地状況	【スポーツ】石狩市 B & G 海洋センター 【スポーツ】はまなす国体記念石狩市スポーツ広場	【行政】石狩市役所 【福祉】総合保健福祉センターりんくる	【教育】石狩市立花川北中学校	【交流】花川北コミュニティセンター 【商業】セブン-イレブン花川北 3 条店 【商業】ツルハドラッグ花川北店	【行政】石狩市役所 【福祉】総合保健福祉センターりんくる 【社教】石狩市民図書館 【金融】石狩市役所前郵便局
	評価	○ 施設立地数 = 2	○ 施設立地数 = 2	○ 施設立地数 = 1	○ 施設立地数 = 3	◎ 施設立地数 = 4
	各小学校からの距離によるアクセス性	学校区別人口数で加重平均した各小学校から建設候補地までの距離(旧石狩市で算定) 自動車: 3.92km 徒歩: 3.86km	学校区別人口数で加重平均した各小学校から建設候補地までの距離(旧石狩市で算定) 自動車: 3.71km 徒歩: 3.65km	学校区別人口数で加重平均した各小学校から建設候補地までの距離(旧石狩市で算定) 自動車: 3.69km 徒歩: 3.59km	学校区別人口数で加重平均した各小学校から建設候補地までの距離(旧石狩市で算定) 自動車: 3.55km 徒歩: 3.50km	学校区別人口数で加重平均した各小学校から建設候補地までの距離(旧石狩市で算定) 自動車: 3.89km 徒歩: 3.80km
	評価	－候補地の中で、大きな差はない	－候補地の中で、大きな差はない	－候補地の中で、大きな差はない	－候補地の中で、大きな差はない	－候補地の中で、大きな差はない
	最寄バス停への距離	最寄バス停 距離(m) 花川北 6 条 1 丁目 約 680m	最寄バス停 距離(m) 花川北 6 条 1 丁目 約 330m	最寄バス停 距離(m) 花川北 3 条 4 丁目 約 210m	最寄バス停 距離(m) 花川北 3 条 1 丁目 約 130m	最寄バス停 距離(m) 石狩庁舎前 約 170m
	バス路線	10 系統(札幌駅、麻生、手稲、宮の沢、栄町方面へ接続)	10 系統(札幌駅、麻生、手稲、宮の沢、栄町方面へ接続)	3 系統(札幌駅、麻生方面へ接続)	7 系統(札幌駅、麻生、手稲、宮の沢、栄町方面へ接続)	14 系統(札幌駅、麻生、手稲、宮の沢、栄町方面へ接続)
評価	▲運行系統が多いが、バス利用の徒歩圏(300m)より距離がある	○バス利用の徒歩圏(300m)から僅か外れるが、運行系統が多い	○バス利用の徒歩圏(300m)内に立地しているが、運行系統に限られる	◎バス利用の徒歩圏(300m)内に立地しており、運行系統が多い	◎バス利用の徒歩圏(300m)内に立地しており、運行系統が多い	
都市計画	都市計画・用途地域の指定状況	市街化調整区域	商業地域	第1種中高層住居専用地域	商業地域	商業地域
評価	▲開発許可が必要な場合がある	○立地可能	○立地可能	▲用途地域の変更が必要	○立地可能	○立地可能
実現性		○プールが使用できない期間なく整備が可能	○プールが使用できない期間なく整備が可能	○プールが使用できない期間なく整備が可能	▲新プール整備時は現石狩市民プールの利用が不可	○プールが使用できない期間なく整備が可能
総合評価	上記に基づく 合計点数と順位 (◎=3点、○=2点、▲=1点)	18 点(3位)	20 点(2位)	18 点(3位)	17 点(5位)	24 点(1位)

### (3) 計画地

前述のとおり、石狩市本庁舎と総合福祉センター(りんくる)に挟まれた敷地「りんくる横空き地」を建設の計画地に決定します。

なお、「石狩市立地適正化計画」において、「りんくる横空き地」を含む「本庁舎周辺エリア」は都市機能誘導区域に設定しており、行政施設・文化施設・商業施設などの都市機能(都市機能施設)を誘導、または整備することで、人の出会いや交流が生まれる拠点づくりが求められています。



図 計画地と本庁舎周辺エリア

#### (4) 計画地の概要・敷地条件

計画地の概要は、下表に示すとおりです。

表 計画地の概要

仮称	りんくる横空き地
住所	石狩市花川北6条1丁目 601番地および602番地の一部
土地所有者	石狩市
都市計画用途指定	商業地域
建蔽率・容積率の制限	建蔽率:80%以下 容積率:400%以下
災害リスク	(浸水想定・土砂災害警戒区域の該当有無) 洪水浸水想定区域に含まれない 津波浸水想定区域に含まれない 土砂災害特別警戒区域ないし警戒区域に含まれない
公共交通アクセス	北海道中央バス「石狩庁舎前」徒歩2分 路線14系統(札幌駅、麻生、手稲、宮の沢、栄町方面へ接続)
接道	一般道道273号 花畔・茨戸通(計画幅員25m、上下2車線)に面する
上水道	上水道供給エリア内(花川北配水場)
下水道	汚水本管(北面 VU管Φ200mm) 雨水本管(北面 HP管Φ350mm、南面 HP管Φ600mm)

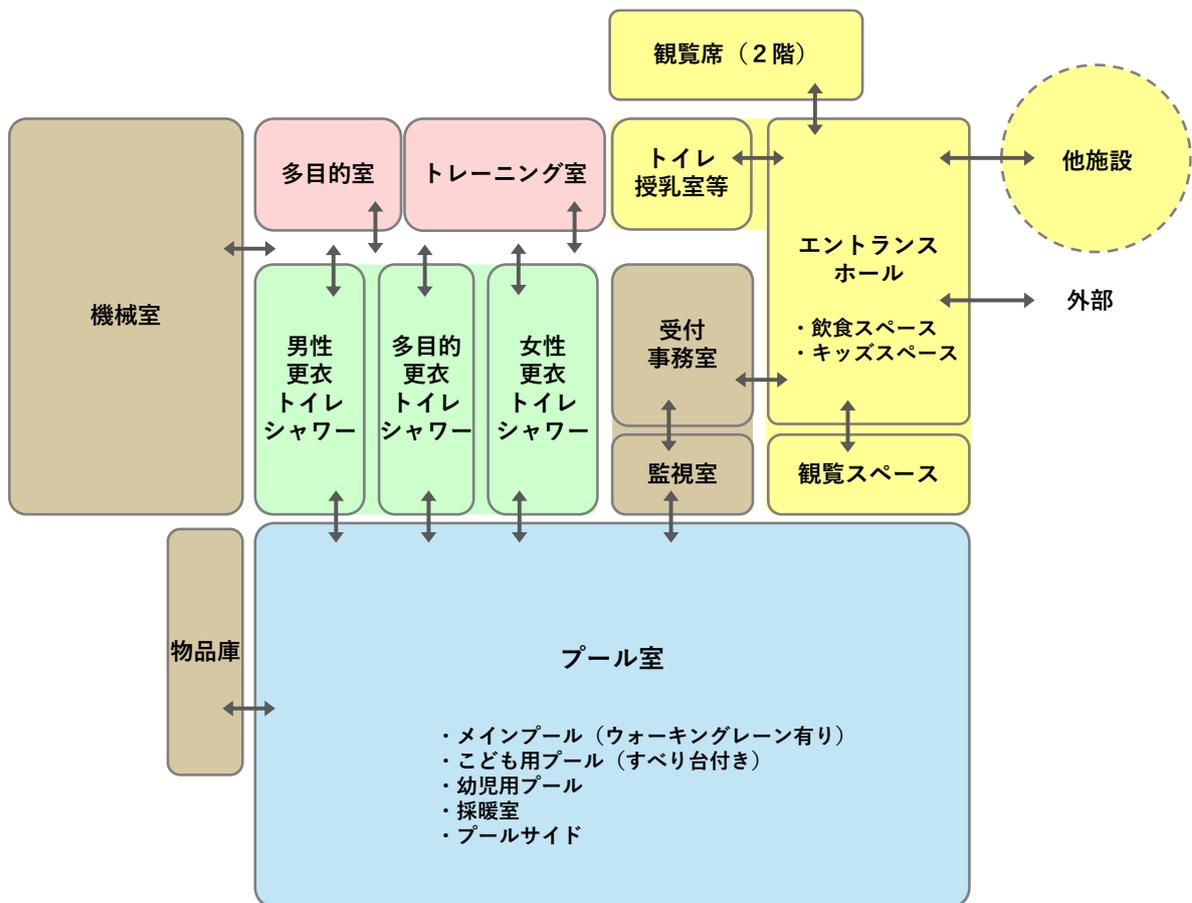
### 3-3 配置計画

#### (1)ゾーニング

3-1で挙げた必要諸室について、相互の位置関係を整理したゾーニング図を示します。

十分な敷地面積が確保可能であり、市民の利用のしやすさも考慮して、平面的なレイアウトとします。

一般開放ゾーンとプールゾーンを分け、両ゾーン間の移動を受付で確認できるようにします。



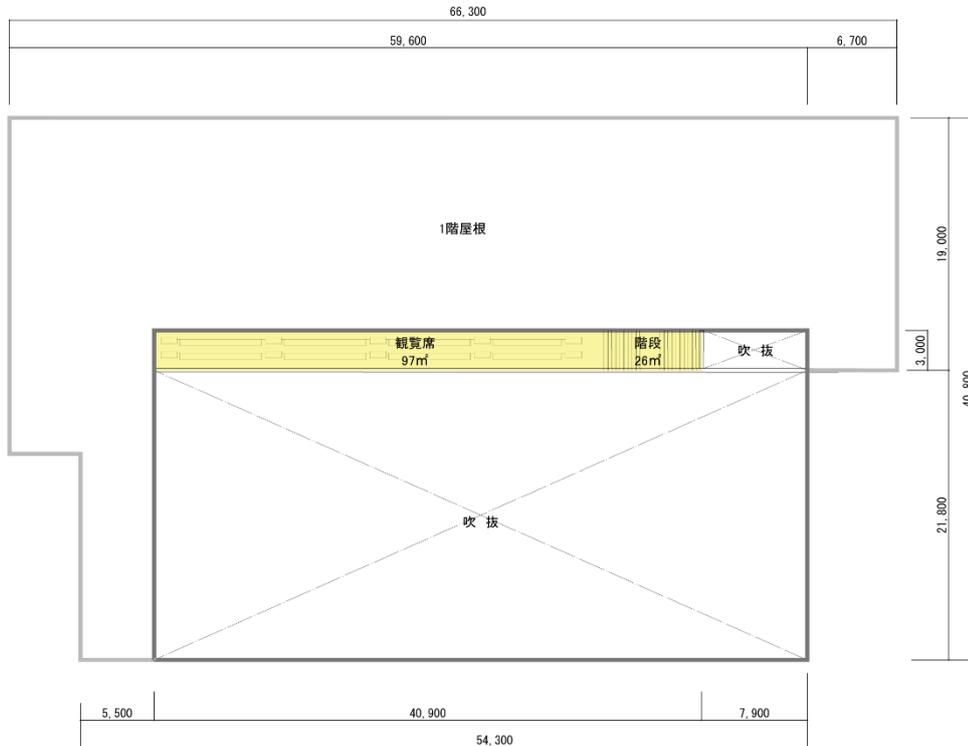
ゾーニング	入場区分	履物
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:yellow;"></span> 一般開放ゾーン	無料	土足
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:lightcoral;"></span> トレーニングゾーン	有料	上履き
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:lightgreen;"></span> プール更衣ゾーン	有料	裸足
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:lightblue;"></span> プール (Wet) ゾーン	有料	裸足
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:lightbrown;"></span> 管理用ゾーン	入場不可	-

図 ゾーニング図

## (2)レイアウトイメージ

前頁のゾーニング図を仮にレイアウトすると、下図のようなイメージ※となります。  
 ※仮のレイアウトであり、設計段階でレイアウトは変更される場合があります。

### (2階)



### (1階)

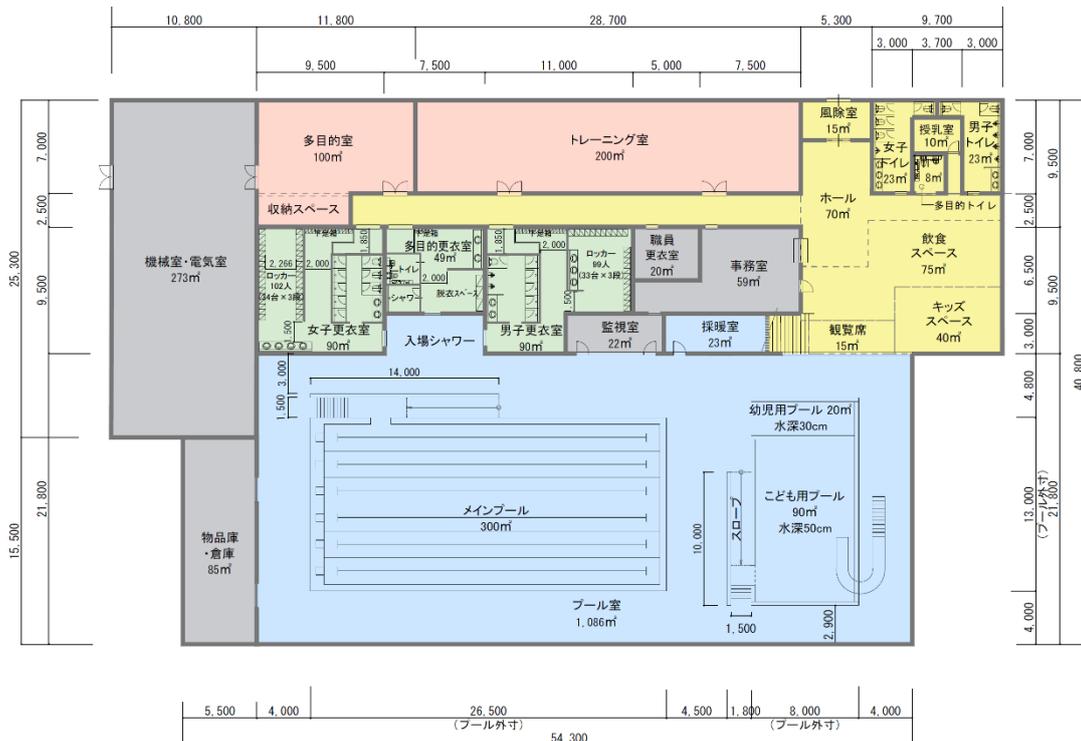


図 レイアウトイメージ図

### (3) 配置イメージ

前頁のレイアウトイメージを「りんくる横空き地」の敷地に配置すると、下図のようなイメージ※となります。

総合福祉センターりんくるやこども未来館あいぽーと、市民図書館などの周辺施設との連携を図ることで、健康・福祉・文化・行政エリア、こども・教育・交流・レクリエーションエリアとして機能強化を図ります。

※本レイアウトはプール単体の場合による仮の配置であり、今後、複合施設の検討状況により変更される場合があります。

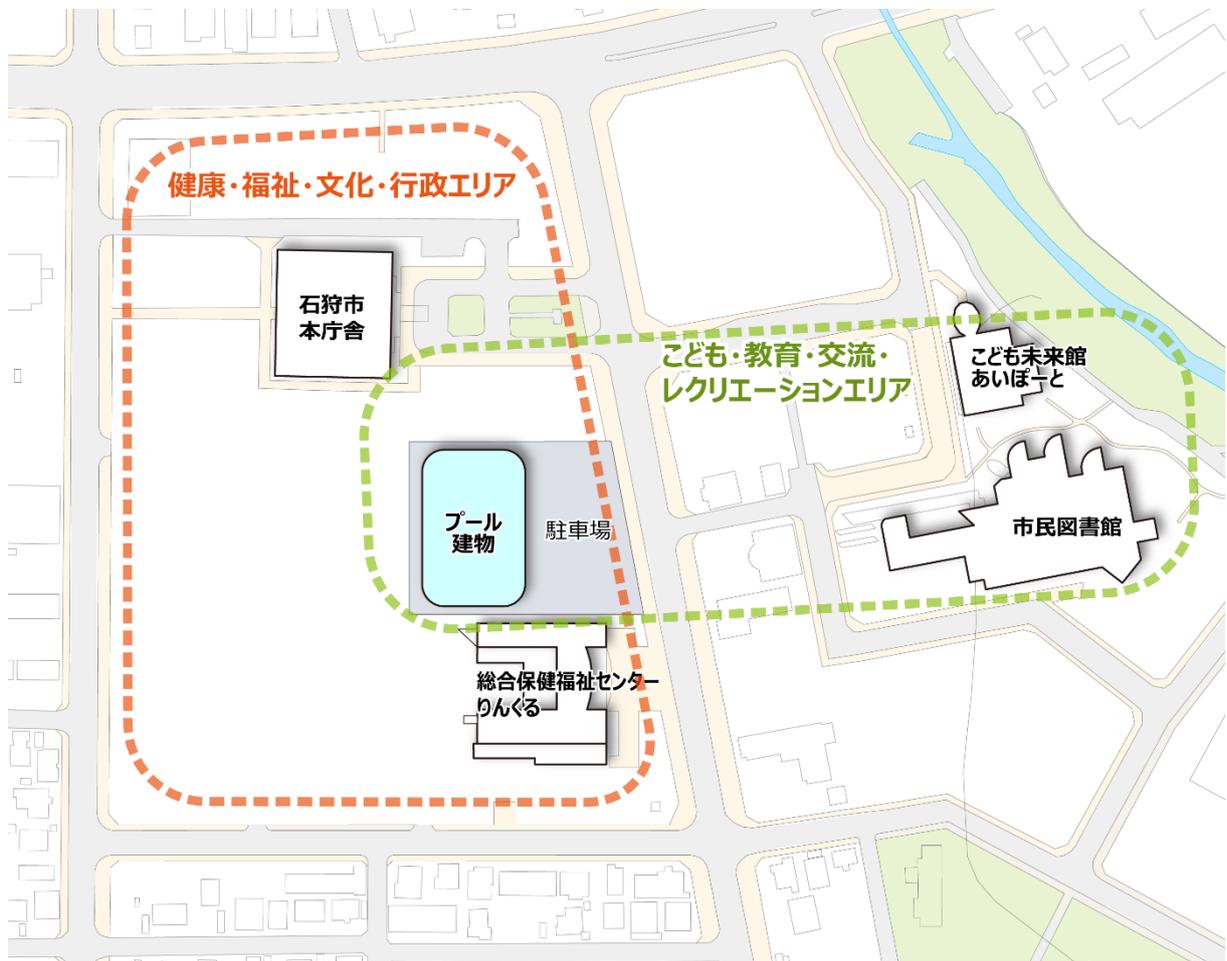


図 配置イメージ

### 3-4 設備計画・防災計画

#### (1) 設備計画

##### i) プール槽

プール槽の材質にはコンクリート・金属・樹脂(FRP)があり、一般に下表で示すような材質特性があります。

詳細については、耐久性・維持管理性・価格などを考慮し、今後の設計段階で検討します。

表 プール槽の材質特性比較

	鉄筋 コンクリート製	PC コンクリート製	ステンレス鋼製	FRP 製	セラミック製
加工性	現場加工のため製品の標準化が困難で工数がかかる。	側板と上部ブロックは工場製作し、底板のみ現場打設。作業性は良いが形状に制約有り。	板金加工により変形プールを自由に加工できる。工場加工率 50%、TIG・MIG 溶接ひずみが多い。	側板と上部ブロック、底板全て工場製作。作業性は良好。	鉄筋コンクリート製と同じ。躯体の表面をセラミックで仕上げるため工期が長い。
耐久性	不等沈下によるクラックを防止できれば、耐久性は大変優れている。	品質が安定しており、耐久性が優れている。	鋼製やアルミ製に比べ耐食性に優れている。耐震性・耐久性に優れている。	耐食性に富む。結合部がボルト締めや FRP 積層のため他に比べて耐震性に難がある。	構造的には鉄筋コンクリート製と同じ。仕上げ面の耐久性では最も優れている。
維持管理性	モルタルのクラックや剥離に注意が必要。美観・衛生面で他より劣る。	仕上げモルタルが不要なため、クラックの恐れはない。	3~5年ごとに塗り替えが必要。補修後は新品同様となり清掃が容易。	セラミック製に次いで維持費が安い。	躯体のクラックや剥離が無ければメンテナンスフリーで清掃も容易。
価格比 (対鋼製比較)	80	87	125	120	165
総合評価	長い歴史と多くの実績があり、信頼性は高い。	鉄筋コンクリート製と比べ、工期、維持管理費に優れ、地味ではあるが安定した評価を受けている。施工精度は最も高い。	鋼製・アルミ製の欠点を補う材料である。	表面がゲルコート仕上げのため塗装の塗り替えは不要。	躯体は鉄筋コンクリート製と同様。他に比べて建設費は最も高い。
計画上の 注意点	不等沈下などによる躯体のクラック発生は致命的となる。	高強度コンクリートパネルを使用するため、形状に制約があり、25m50mの長方形プールが主体。	地上、屋上、屋内温水など多方面に使用できる。塗装を施す場合は下地処理に注意が必要。	構造強度の関係でデッキ式が多い。学校プールでの実績が多い。	躯体及び下地のクラック、タイルの剥離に注意が必要。その他の点で最も信頼性が高い。

資料：空気調和衛生工学会「給排水衛生設備設計編空気調和衛生工学便覧第 12 版」より要約再編集

## ii)水深調整

幼児から競技者まで幅広い層が安全に利用できるよう、体格の違いや身体機能・泳力の違いに応じて水深を調整する必要があります。

水深調整には以下の方法がありますが、初期導入コストや維持管理費が低く、経済性に優れることから、プールフロア(通称:赤台)による水深調整を採用します。

表 プールの水深調整方法

方法	概要	イメージ図
①可動床による水深調整	プール内に設置された床が電動で上下する。	
②タンク貯留による水深調整	プールの水をタンクに一時貯留することで、水深を調整する。	
③給排水による水深調整	水道水の給水及びプール水の排水により、水深を調整する。	
④段差による水深調整	1つのプールにコンクリート等の段差を設け、2種類の水深域を設ける。	
⑤プールフロア(通称:赤台)による水深調整	プール底部にプールフロア(通称:赤台)を設置し、水深を浅くする。	

表 水深調整方法の比較評価

水深の調整方法	①可動床による水深調整	②タンク貯留による水深調整	③給排水による水深調整	④段差による水深調整	⑤プールフロア（通称：赤台）による水深調整
作業の容易性・使い勝手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人的労力が不要</li> <li>・短時間で水深調整が可能</li> <li>・利用者に合った水深で全面的利用ができる（1cm単位で設定可能）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人的労力が不要</li> <li>・水深調整に時間が掛かるため、利用制限が生じる</li> <li>・低水位時、プールサイドと水面の高低差ができるため、入退水が円滑にできない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人的労力が不要</li> <li>・水深調整に時間が掛かるため、利用制限が生じる</li> <li>・低水位時、プールサイドと水面の高低差ができるため、入退水が円滑にできない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調整の必要なし</li> <li>・利用可能な範囲が制限される（一般利用者は水深の深い範囲のみの利用など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人複数人での設置・撤去作業が必要であり時間を要する</li> <li>・プールフロアの配置変更により多様な使い方ができる（全面利用も可）</li> </ul>
メンテナンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可動床の定期的なメンテナンスが必要（1回／年）であり、故障リスクが高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンク（環水槽）、ろ過装置、電磁バルブ等の定期的なメンテナンスが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電磁バルブ等の定期的なメンテナンスが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別なメンテナンスは必要なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プールフロアの定期的なメンテナンス（清掃等）が必要</li> </ul>
コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可動床の導入コスト：高</li> <li>・その他、可動床設置による水深（水量）増加で、プール本体工事費、ボイラー等の機器代のコスト増が想定される</li> <li>・電気代：軽微</li> <li>・メンテナンス費用が必要</li> <li>・故障時の修理に多額のコストがかかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンク（環水槽）、ろ過装置、電磁バルブ等の設置が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電磁バルブ等の設置が必要</li> <li>・水深調整時に給排水を繰り返すため、水道代が掛かる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的なプールの整備に比べ僅かにコスト増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮に、プール2コース導入する場合、2m×1mのプールフロアが約50個必要</li> <li>・導入コスト：低</li> <li>・保管するための諸室の整備が必要</li> </ul>
総合評価	×使い勝手は良いが、メンテナンス・コストの面で不採用	×使い勝手、メンテナンス、コストの面で不採用	×使い勝手、メンテナンス、コストの面で不採用	×使い勝手の面で不採用	○コスト、使い勝手の面で採用

### iii) 水循環システム

プールの循環浄化法は、ろ過と滅菌の2つの機能で構成され、循環浄化装置には「砂式」「珪藻土式」「カートリッジ式」があります。能力や費用などを考慮して、適切な水循環・浄化システムを導入し、塩素使用量の低減と水質の安定化を図ります。詳細については、今後の設計段階において検討します。

表 循環浄化装置形式

	砂式	珪藻土式	カートリッジ式
概要図			
ろ材	天然砂または人工ろ材 (シャモットサンドなど)	珪藻土粉末をろ過エレメントに 付着させ、ろ過膜を成形。	糸巻き型のカートリッジ。ポリ エステル不織布製プリーツ型カ ートリッジが一般的。
ろ過速度・ 能力	25～45m/h 35m/h以下が望ましい。	4～10m/h 8m/h以下が望ましい。	4～6m/h
ろ過精度	10～30μm	5μm以下(高精度)	5μm以下～50μm (カートリッジ種類による)
設置 スペース	1.0 (基準値)	砂式の0.7～0.8	砂式の0.6～0.7
運転操作	手動式はやや複雑。 自動式は容易。	手動式はやや複雑。 自動式は容易。	容易。
運転 維持費	1.0 (基準値)	砂式の1.0～1.5	砂式の1.2～1.8
ろ材交換	補充 10%/2年 全交換 5～10年ごと	ろ布ろ材ごと 10～15年/回	3～4ヶ月ごとに カートリッジ交換
逆洗	2～4日に1回 10～15分	2～3日に1回 10分程度	逆洗不能
適応性	水質変動にも強く、大型 レクリエーションプールや 学校プール、一般屋外、 屋内プールにも幅広く使 用。	水質変動が少ない一般屋内/ 屋外プールに適する。	遊泳者の少ない屋外プール。

資料：一般社団法人 日本公園緑地協会「都市公園技術標準解説書(令和7年度版)」

#### iv)省エネルギー・再生可能エネルギーの導入

ライフサイクルコスト低減とゼロカーボンシティ実現に向けて、省エネ設備・再エネ設備の導入を検討します。

具体的には、太陽光発電設備や蓄電池の設置、高効率空調(ヒートポンプ式空調等)導入などによる ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)※の考え方を踏まえた計画とします。

ただし、温水プールはプール水の常時加温・保温や高湿環境下での換気・除湿が必要であり、熱エネルギー需要が大きいことから、ZEB の取得には高いハードルがあります。

そのため、施設の用途特性を踏まえ、ZEB 達成の可否に限定せず、太陽光発電や風力発電による再生可能エネルギー電力の活用等を検討し、実効性の高い省エネルギー化と脱炭素化を図ります。

※ZEBとは、Net Zero Energy Buildingの略称で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のことです。エネルギー収支の状況に応じて、ZEB、Nearly ZEB、ZEB Ready及びZEB Orientedの4段階が定義されています。

#### v)AI 監視システム

安心・安全な利用環境を確保するため、AI 搭載カメラによる監視システムの導入を検討します。また、導入により溺水事故の早期検知が可能となり、利用者の安全性向上を図ります。

vi) 諸室の電気・機械設備の想定

諸室の電源・通信・放送・水道・空調等の設備を以下のとおり想定します。

表 諸室の設備

		電源	ネットワーク		OA フロア	電話等			放送			監視 カメラ	上下水道			空調	
			LAN	Wifi		外線	内線	非常 呼出	TV 受信	館内 放送	緊急 放送		給湯	給水	排水	冷房	暖房
プール室	メインプール	-										○	○	○	○		
	子ども用プール	-										○	○	○	○		
	プールサイド	適宜	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○		○
	入場前シャワー	-									○		○	○	○		
	採暖室	適宜					○	○		○	○	○			○		○
更衣室	一般更衣室	適宜		○			○	○		○	○		○	○	○	○	○
	多目的更衣室	適宜		○			○	○		○	○		○	○	○	○	○
受付/事務室		適宜	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○
監視室		適宜	○	○	○		○			○	○	○		○	○	○	○
物品庫		適宜		○							○						
機械室		適宜		○							○						
エントランスホール		適宜	○	○			○		○	○	○	○		○	○	○	○
観覧	観覧スペース (1F)	適宜		○						○	○					○	○
	観覧席 (2F)	適宜		○			○		○	○	○					○	○
トイレ	男性用	適宜						○		○				○	○	○	○
	女性用	適宜						○		○				○	○	○	○
	多目的トイレ	適宜						○		○				○	○	○	○
授乳室・おむつ替え室		適宜						○		○			○	○	○	○	○
トレーニング室		適宜		○			○	○		○	○	○				○	○
多目的室		適宜		○			○	○		○	○	○				○	○
通路		適宜		○						○							

## (2)防災計画

### i)耐震性

施設は、最新の耐震基準に基づいて構造設計し、災害時における安全性を確保します。具体的には、多数の市民が利用するスポーツ・健康増進施設であり、地震時において倒壊・崩壊を防ぐのみならず、災害時においても周辺の公共施設と連携しながら施設の継続利用・機能確保が求められる施設です。このため、「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準(国土交通省大臣官房官庁営繕部、平成 25 年)」に基づき、構造体：Ⅱ類、建築非構造部材：B 類、建築設備：乙類に準拠した耐震安全性を確保します。

ただし、複合施設の検討により、避難所等に指定される場合、耐震安全性の分類は変更する可能性があります。

また、プール槽や機械室については、地震発生時の水漏れや設備損傷の防止を図るとともに、地震発生時の天井落下・設備脱落リスクを低減するためのアンカーや二重支持構造等を検討します。

表 耐震安全性の目標

部位	分類	耐震安全性の目標
構造体	Ⅱ類	大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られるものとする。
建築非構造部材	B 類	大地震動により建築非構造部材の損傷、移動等が発生する場合でも、人命の安全確保と二次災害の防止が図られていることを目標とする。
建築設備	乙類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られていることを目標とする。

### ii)プール水の活用

災害時・緊急時には、プール水を生活用水や消火用水としての活用を検討します。

## 第4章 市営プールの事業計画

### 4-1 事業手法

プール整備における事業手法については、市が施設の設計から建設を行い、指定管理者制度等を活用して民間が運営する「公設民営」のほか、設計から施工、管理運営まで一括して発注する「公設民営（DBO(Design Build Operate)方式）」や「民設民営（PFI(Private Finance Initiative)方式）」といった民間事業者のノウハウ等を生かした事業手法（PPP/PFI）も想定されます。

これら「公設民営（DBO方式）」や「民設民営（PFI方式）」については、施設の維持管理や運営を見据えた設計・施工によるコスト縮減が期待される等、民間事業者の創意工夫が発揮しやすくなる等の特色を有しています。

一方、PFI方式は民間事業者が金融機関等の融資による資金調達を実施することから、施設整備費等の事業費は割賦払いとなり、財政負担の平準化を図ることが可能となる一方、金利面で有利な地方債や国の補助制度等の活用が出来ないといった制約があります。また、DBO方式に関しては、施設整備に係る資金調達が市であることから、地方債を活用することが可能となりますが、建設時における財政負担が大きくなる側面もあります。

表 主な事業手法

	公設民営(指定管理)	公設民営(DBO方式) DBO:Design Build Operate	民設民営(PFI方式) PFI: Private Finance Initiative
概要	・市が資金調達し、施設の設計、建設、運営、維持管理を民間事業者等に個別に発注する方式。 ・維持管理・運営については、原則単年度契約で業務の一部または全部を民間業者等に委ねる指定管理方式。	・市が資金調達し、施設の設計・建設及び運営・維持管理を一括して民間事業者等に委託する方式。	・資金調達から施設の設計・建設及び運営・維持管理を一括して特定目的会社（SPC）に委託することで、民間の資金やノウハウを活用して事業を行う方式。
資金調達	市	市	民間
設計	市	民間	民間
施工	市	民間	民間
管理運営	民間(指定管理)	民間	民間
施設所有	市	市	BTO※の場合、建設中は民間、建設後に市へ移転 その他に、BOT※、BOO※がある

※BTO…Build-Transfer-Operateの略称。民間が建設（Build）した後、市に所有権移転（Transfer）した上で、民間が管理運営（Operate）を行う。

※BOT…Build-Operate-Transferの略称。民間が建設（Build）し、運営管理（Operate）を行い、事業期間後、市に所有権移転（Transfer）を行う。

※BOO…Build-Own-Operateの略称。民間が建設（Build）した後、民間が所有（Own）したまま運営管理（Operate）を行う。事業期間終了後には解体撤去をするため、市は所有しない。

各事業手法別に、発注者の負担、市民・行政の意見反映、民間ノウハウの活用、事業の安定性、財政負担、地域経済への貢献の6項目について比較したものを一覧表にしています。

公設民営(指定管理)は、既存ノウハウで対応可能であり、設計、建設、管理・運営の各段階において市や市民の意向を反映しやすい点に優位性があります。また、設計、建設、管理・運営を個別に発注することから、地元企業が参画しやすい点も特徴です。

公設民営(DBO方式)及び民設民営(PFI方式)は、設計等に建設や維持管理・運営のノウハウを活用することが可能です。民設民営(PFI方式)は、民間資金を活用することで初期建設費に係る市の財政負担を平準化できる点に優位性がある一方で、PFI特有のコストが発生することになります。

以上から、公設民営(指定管理)、公設民営(DBO方式)を候補として今後検討を進めますが、複合施設の整備方針によって条件が変わる可能性があるため、事業化に向けては、今後詳細な検討を行った上で、国の支援制度の動向や市の財政状況を見極めながら、複合施設の検討と併せて最適な事業手法を決定することとなります。

表 事業手法の比較

方式	公設民営(指定管理)	公設民営(DBO方式)	民設民営(PFI方式)	
発注者の負担	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存のノウハウで対応可能</li> <li>フェーズごとに都度発注行為が発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存のノウハウで対応できない事項が多く、発注時点で市の負担が大きい</li> <li>発注行為が一括でできる</li> </ul>		
市民・行政の意見反映	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務ごとに市の仕様書に基づき発注するため、各段階で市や市民の意向を反映しやすく、品質・柔軟性が確保されやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の公募前に要求水準書を取りまとめる必要がある</li> <li>事業契約で設計内容と価格を決めるため、設計変更が生じた場合は、協議の上契約変更が必要となる</li> </ul>		
民間ノウハウの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>分割・仕様発注のため、民間の創意工夫は限定的となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計等に建設や管理・運営のノウハウを活用することが可能</li> </ul>		
事業の安定性	リスク分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則、全て市のリスク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>官民で適切なリスク分担が期待できる</li> </ul>	
	事業継続性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営状況に関わらず事業継続可能</li> <li>維持管理は事後修繕が基本となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業者の長期運営による継続性リスクがあるが、監視機能(契約、モニタリング、金融機関の業務監視機能など)により対応可能</li> <li>予防保全の視点に基づいた維持管理が可能</li> </ul>	
	供用開始までの期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>着実な契約工程管理が可能</li> <li>設計・建設が別発注であることから一定の工期を要する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロポーザル実施のため、公募に一定の期間を要する</li> <li>設計・建設に係る期間は、一括発注であるため、工期短縮が期待できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PFI法に基づき事業者選定を行うため、公募に一定の期間を要する</li> <li>設計・建設に係る期間は、一括発注であるため、工期短縮が期待できる</li> </ul>
財政負担	財政支出削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>分割発注のため一括化によるコスト低減の期待が薄い</li> <li>公募関連の調査費が発生しない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計、建設、管理・運営の一括発注によりコスト削減が期待される</li> <li>公募関連の調査費が発生する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計、建設、管理・運営の一括発注によりコスト削減が期待される</li> <li>公募関連の調査費が発生する</li> <li>SPC設立や割賦金利など、PFI特有の費用がかかる</li> </ul>
	財政支出平準化	<ul style="list-style-type: none"> <li>起債により一部の財政負担を平準化することは可能だが、残りは出来高または竣工後一括払いとなる</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>民間資金の活用により、財政負担額の平準化を図ることができる</li> </ul>
地域経済への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計、建設、管理・運営が個別発注となるため地元企業が参画しやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計、建設を一括で推進できる地元企業は限定的だが、公募要件の設定により、JVや下請として地元企業への発注を促進させることは可能</li> </ul>		

## 4-2 整備事業費・維持管理費の概算

### (1) 整備事業費の概算

概算事業費について、整備事例を踏まえると、約 31.7 億円と想定されます。

なお、ここで示した金額は、今後の物価上昇による影響を一部考慮しています。また、各整備事業費の内訳については、今後の設計段階で詳細に検討します。

表 整備事業費の概算

費目	金額
調査・設計費	約 2.2 億円
建設費	約 26.0 億円
外構整備費	約 1.0 億円
移転費・什器備品費	約 1.1 億円
既存施設解体費	約 1.4 億円
合計	約 31.7 億円

### (2) 維持管理費の概算

プールの維持管理に係る市負担額は、石狩市民プールにおける令和 8 年度予算ベースのランニングコストを踏まえて、8,400 万円/年と想定されます。

なお、ここで示した金額は、今後の物価上昇による影響は考慮していないことに留意が必要です。また今後、整備内容や維持管理・運営手法等の検討が具体化してく中で、詳細に検討します。

表 維持管理費の概算(R8 年度予算ベース)

施設面積	2,600 m <sup>2</sup>
維持管理・運営に係る費用(想定)	84,000 千円/年

(参考) 石狩市民プールにおける維持管理・運営コスト (R8年度予算ベース)

施設面積	1,764 m <sup>2</sup>
維持管理・運営に係る費用	57,252 千円

## 4-3 財源

プール整備に係る財源については、石狩市の財政運営に有利な地方債制度や国・北海道の各種補助金・交付金制度のほか、公益財団法人 B&G 財団の助成制度の活用可能性について調査・情報収集を行い、これらの制度を積極的に活用します。

表 プール建設で活用が想定される交付金・補助金・起債

	制度	留意事項等
交付金・補助金等	公益財団法人 B&G 財団「地域海洋センター修繕助成」	・プール特別措置 助成限度額 1 億円
	文部科学省「学校施設環境改善交付金」 (地域スイミングセンター)	・国費率 原則 1/3 ※他の公共施設との複合化・集約化を行う場合の地域スイミングセンターにあつては 1/2
起債	公共施設等適正管理推進事業 (集約化・複合化事業)	【集約化・複合化】 ・充当率 90% ・交付税措置率:50%

表 設備導入等で活用が想定される交付金・補助金・起債

	制度	留意事項等
交付金・補助金等	内閣府「地域未来交付金」 (拠点整備事業、インフラ整備事業)	【拠点整備事業】 ・10 億円/事業 ・補助率 1/2 ・事業計画期間:原則 3 か年度以内(最長 5か年度)  【インフラ整備事業】 ・10 億円(単年度目安 2 億円) ・補助率:1/2 等(各省庁の交付要綱に従う) ・事業計画期間:原則 5 か年度以内(最長 7か年度)
	環境省「地域レジリエンス・脱炭素化をどう実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業」	・補助率 設備導入(運営体制、導入設備によって 2/3~1/3) ・補助対象 地方公共団体
	環境省「建築物等の ZEB 化・省 CO2 化普及加速事業」	・補助率…延床面積 2,000 m <sup>2</sup> 以上~10,000 m <sup>2</sup> 未満 ZEB:1/2、Nealy ZEB:1/3、ZEB Ready:1/4 (各上限 3億円)
起債	脱炭素事業債 (再生可能エネルギー設備等の整備に関する事業)	・充当率 90% ・交付税措置率:50%

## 4-4 運営計画

### (1) 利用者の想定

現在の石狩市民プールの利用者数は令和4年度から令和6年度にかけて約3万5千人～約3万7千人となっています。利用者数のうち、水泳教室等の利用が6割程度を占めており、一般利用は3割程度です。また、石狩市B&G海洋センタープールの令和5年度から令和6年度の利用者数は約4千人～5千人となっています。

石狩市民プールと石狩市B&G海洋センタープールのこれまでの利用者数を基本としつつ、多様な世代・目的の利用者が気軽に活用できるプールとなるよう利用促進を図ることで、約4万1千人の年間利用者数を将来的な目標利用者数と想定とします。

また、利用ニーズに合わせて各レーンは弾力的に運用することとしますが、現時点での想定としては、メインプール6レーンのうち1～2レーン(下図では第1レーン)を水中ウォーキングに使用することを考えます。さらに、一部レーンに移動可能なプールフロアを設置(下図では第6レーン)し、水深を調整します。

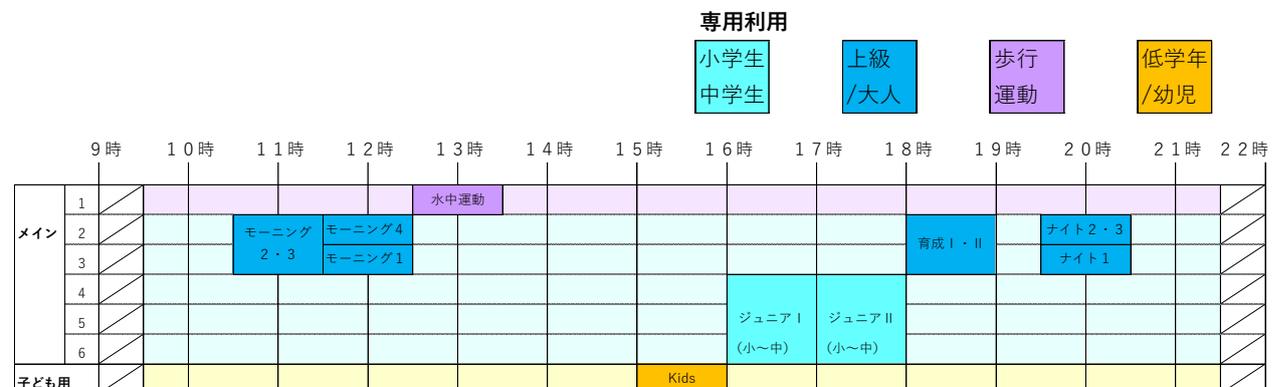
現在は、レーンを専用利用とすることで各種の水泳教室が実施されていますが、現在と同じく水泳教室等が最も多く開催される日の利用状況を想定すると、下図のような利用想定となり、一般利用者も全時間帯で利用が可能となる見込みです。

また、学校プール授業の実施を想定し、授業実施日の運用については水泳教室等の時間調整をするなどの検討を行います。

図 レーン別の運用想定(水泳教室無しの日)



図 レーン別の運用想定(水泳教室等が最も多い日)



## (2) サービス内容の想定

供用期間や開館時間、利用料金等のサービスについて、現在の石狩市民プールと石狩市 B&G 海洋センタープールの現況を踏まえ、今後の利用者ニーズに合わせた設定を検討します。

表 (参考) 現施設のサービス内容

	石狩市民プール(温水プール)	石狩市 B&G 海洋センタープール
供用期間	通年(温水プール)	7月・8月
休館日	毎月第一、第三日曜日、年末年始	供用期間中は無休
開館時間	9時30分から21時30分まで	10時から20時30分まで
利用料金 (一般)	一般利用券 : 550円 回数券(6枚):2,900円	一般利用券 : 200円 回数券(11枚):2,000円
利用料金 (こども等)	小学生: 280円 中学生: 280円 高齢者: 280円 障がい者: 280円 高校生・大学生:400円	中学生以下無料

## 4-5 事業スケジュール

今後の事業スケジュールは、別途検討する複合施設の進捗状況に応じて進めることとなりますが、プール単体整備の場合、現段階の想定としては1年目に基本設計及び実施設計、2年目から3年目にかけて建設工事を行い、4年目に外構工事を経て供用開始と考えます。

---

## 石狩市営プール整備基本計画

令和8年3月

石狩市 健康推進部 スポーツ健康課  
〒061-3216 北海道石狩市花川北6条1丁目41番地1  
石狩市総合保健福祉センター「りんくる」  
Tel : 0133-72-6123

---